

大正大学本『源氏物語』『花散里』『須磨』の翻刻

大場 朗
魚尾 孝久

翻刻の経緯

一 本翻刻は、大正大学附属図書館によって貴重書画像として公開（ホームページ）されている大正大学本源氏物語を、パソコン教室でのリーディングの形式によって授業取り入れたものである。

一 翻刻は、平成二十年より日本語日本文学コースの授業「古典文学研究」における翻刻を基にして、それぞれ巻別の翻刻担当者によって精査したものである。

一 翻刻にあたっては、学習研究のためであるので、変体仮名の字母漢字も並列表記したところに特色がある。

一 当該授業は現在もおこなわれており、翻刻されたものは順次公開していく。

大正大学本源氏物語翻刻凡例

一 本翻刻は、大正大学附属図書館貴重書画像公開（ホームページ）から翻刻し、不明瞭なところは原本と照合する方法によった。

一 翻刻における頁の表記は、検索の便宜を図るため、ホームページにおける頁数を使用した。

例【桐壺】5

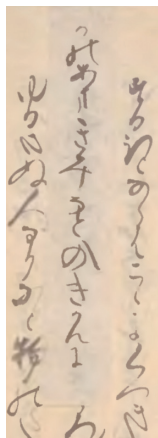
一 翻刻にあたっては、「変体仮名字母漢字（青色）」と「平仮名（黒色）」を並列表記した。

例 以徒蓮乃御時尔可女御更衣安未多左不良
いつれの御時にか女御更衣あまたさふら

一 附箋によって添付されている場合は、ホームページにしたがい、附箋のみの頁と本文の頁とにわけて翻刻をした。

例 附箋（可能安万幾美奈止乃幾可无尔）

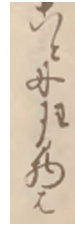
（かのおまきみなとのきかんに）



一行間の文字および補入文字は（ ）□にて本文に入れた。

例 古止丹尔（王）留物者

ことに（わ）る物は



民部少輔イ乃

民部少輔イの



一 見せ消ちは、そのまま表記して、「||」取り消し線を伏した。

例 「かゆ」

一 字母漢字は、旧字と略字が混用されているが、翻刻にあたっては通行体表記とした。

例 「禮」↓「礼」 「傳」↓「伝」

一 漢字は、旧字体と略字体とが混用されているが、通行体表記とした。

例 「國」↓「国」 「繪」↓「絵」

「哥」↓「歌」 「佛」↓「仏」

「聲」↓「声」

一 当て字は、そのまま表記した。

例 「さか月」（杯） 「伊与」（伊予）

一 当翻刻における巻別の担当責任者は、次の通りである。

「花散里」 中村 花緒

「須磨」 魚尾 孝久、魚尾 和瑛

(魚尾 孝久)

【花散里】 5

人志連奴御心徒可良濃毛乃於毛者之左盤
人しれぬ御心つからのものおもはしさは

以川礼止奈幾已止奈女礼登閑久於保可太乃
いつれとなきことなめれとかくおほかたの

世耳川希天佐部王川良八之宇於本之三多流、
世につけてさへわつらはしうおほしみたる、

事乃三末左連波毛能心保曾具世乃中奈部
事のみまされはもの心ほそく世の中なへ

天以登者之宇於毛比女久良之給尔左春可奈留
ていとはしうおもひめくらし給にさすかなる

古止於保可利麗景殿登幾古衣之者宮多知
ことおほかり麗景殿ときこえしは宮たち

毛於者世寸院閑久礼左世給比天後以与く
もおはせず院かくれさせ給ひて後いよく

安者礼奈流御阿利左満遠多、己乃大將能御
あはれなる御ありさまをたゝこの大將の御

心波部丹毛天閑久左連天春久之給奈留部之
心はへにもてかくされてすくし給なるへし

【花散里】 6

御於止宇止乃三乃君宇知和多利丹天波可那久保
御おとうとの三の君うちわたりにてはかなくほ

乃女幾多万飛之奈已利連以濃御古、路奈礼者
のめきたまひしなこりれの御ころなれば

左春可丹王寸礼毛者天給八春和左登毛波多
さすかにわすれもはて給はすわざともはた

毛天奈之給八奴耳人農御心越乃三楚川幾
もてなし給はぬに人の御心をのみそつき

波帝給不部可武女留遠毛此己呂能已流事奈久
はて給ふへかむめるをも此ころのこる事なく

於保之美多流、世乃安者礼乃具左者以耳八
おほしみたるゝ世のあはれのくさはいには

思出給不耳毛志乃比加多久天五月雨乃曾良
思出給ふにもしのひかたくて五月雨のそら

女川良之具者礼多流雲間耳和多利多万婦
めつらしくはれたる雲間にわたりたまふ

奈仁者可梨乃御与曾比奈良仁宇知也徒之天御
なにはかりの御よそひならにうちやつして御

【花散里】 7

世武奈止毛己止仁奈久忍比給部利奈可川農
せむなどもことになく忍ひ給へりな川の
程於八之春久流尔佐、也可奈留以部乃己多知
程おはしするにさゝやかなるいへのこたち
奈止与之者女留耳与具奈留佐宇能古止耳
なとよしはめるによくさうのことに

阿川万遠志良部天加幾阿者世尔幾波、志具
あつまをしらへてかきあはせにきは、しく

比幾奈良須奈利御美、登、末利天加止知加奈留
ひきならずなり御み、と、まりてかとちかなる

登己呂奈連者春己之佐之出天見以連給
ところなれはすこしさし出て見いれ給

部者於保幾奈流閑徒良能木濃遠比可勢
へはおほきなるかつらの木のをひかせ

末利利能己呂於本之以帝良礼天楚己波可登
まつりのころおほしいてられてそこはかと

奈久氣八比於可之幾遠堂、悲止女見給之
なくけはひおかしきをたゝひとめ見給し

【花散里】 8

也止利奈利登思日以多多万婦耳堂、奈良春
やとりなりと思ひいたたまふにたゝならず

保止遍尔介流於本女可之久也止徒、末之介礼
ほとへにけるおほめかしくやとつゝましけれ

登春起可天耳屋春良比給不於利之毛本止、
とすきかてにやすらひ給ふおりしもほとゝ

幾須奈幾天和多留毛与遠之幾古盈可本
きすなきてわたるもよをしきこえかほ

奈礼者御久留満遠之加部左世多万比天連以
なれば御くるまをしかへさせたまひてれい

乃古礼三川遠以連太末不
のこれみつをいたまふ

遠知可遍利衣楚忍者礼奴保止、幾春
をちかへりえそ忍はれぬほとゝきす

保乃加多良比之屋止乃加幾弥耳志无天无止於保
ほのかたらひしやとのかきねにしむてむとおほ

志幾屋能尔之濃川末戸遠之安気天人く
しき屋のにしのつま戸をしあけて人く

【花散里】 9

為多流部之佐幾く毛幾く志流己恵奈利介礼
みたるへしさきくもきくしるこゑなりけれ

者古衣徒具利氣之幾止利天御世宇楚己聞遊
はこえつくりけしきとりて御せうそこ聞ゆ

和可也可奈流介之起止毛安末多志天於保女久奈留部之
わかやかなるけしきともあまたしておほめくなるへし

本登く幾寸可多良婦己恵八曾礼奈可良阿奈
ほとくきすかたらふこゑはそれなからあな

於保川可奈左美多連の空古止左良仁多止流登
おほつかなさみたれの空ことさらにたると

美連者与之く宇盈之加幾年毛止天以川留
みれはよしくうえしかきねもといつる

遠人志礼奴古く呂尔者弥多久毛阿者礼耳毛
を人しれぬころにはねたくもあはれにも

於毛比介利佐毛川く無部幾事曾可之古止
おもひけりさもつくむへき事ぞかしこと

八利遠於毛世波左春可仁寸起可天奈留遍之
わりをおもせはさすかにすきかてなるへし

【花散里】 10

閑也宇乃幾者丹者徒具之能五節古楚良宇
かやうのきはにはつくしの五節こそらう

多氣奈利之者也登末川於保之出連八以可
たけなりしはよとまつおほし出れはいか

奈流己止丹川希天毛御心農以止滿奈可良無可之
なることにつけても御心のいとまなからむかし

登具流之氣奈利年月遠部天毛奈越
とくるしけなり年月をへてもなを

閑也宇耳美之阿多利乃奈左氣八春久之給八奴
かやうにみしあたりのなさけはすくし給はぬ

丹之毛中く安末太農人乃者於毛比久左
にしも中くあまたの人の物おもひくさ

奈梨計留佐天閑乃本以能登己呂八於保之屋利
なりけるさてかのほいのところはおほしやり

川留毛志流具人女奈久志川可耳天於八春留
つるものしく人めなくしつかにておほする

阿利左滿見多万婦毛以登安者礼乃三登利曾部
ありさま見たまふもいとあはれのみとりそへ

【花散里】 11

多利末川女御乃御可多丹天武可之能御毛乃
たりまつ女御の御かたにてむかしの御もの

可多利奈止幾古衣給不耳夜布氣尔介利廿日
かたりなときこえ給ふに夜ふけにけり廿日

乃月左之以徒留本止尔以登、木多可起可希止毛
の月さしいつるほとにいと、木たかきかけとも

己具良久見衣王多利天知可起多知者那乃可保利
こくらく見えわたりてちかきたちはなのかほり

奈川可之具尔保比天女御乃御氣者飛能春己之
なつかしくにほひて女御の御けはひのすこし

祢比多万飛丹堂連登安具末天与宇以安利天
ねひたまひにたれとあくまでよういありて

阿天耳羅宇多氣奈利春久礼天波奈也可
あてにらうたけなりすくれてはなやか

奈留御於保衣安良左利之可登武徒末之具奈徒
なる御おほえあらざりしかとむつましくなつ

可之幾閑太尔八於保之多利之毛乃越奈止
かしきかたにはおほしたりしものをなと

【花散里】 12

於毛比以帝幾古衣給不尔之毛武可之乃己止加幾
おもひいてきこえ給ふにしもむかしのことかき

徒良祢於保左礼天宇知奈幾太末不本登、幾寸
つらねおほされてうちなきたまふほと、きす

阿利川流加幾祢乃尔也於那之己惠耳宇知奈久
ありつるかきねのにやおなしこ氣にうちなく

志多比幾丹介留与止於保左流、本止毛衣无奈利
したひきにけるよとおほさるゝほともえむなり

可之以可丹志利天可奈登志乃飛也可尔宇地春无之
かしいかにしりてかなとしのひやかにうちすむし

多万不
たまふ

堂知者奈濃香越奈徒可之三保止、幾春
たちはなの香をなつかしみほと、きす

花知流佐止遠堂川祢天曾登不以丹之部忘礼
花ちるさとをたつねてそとふいにしへ忘れ

閑多不於保盈給遍良流、奈久左女尔波末川末
かたふおほえ給へらるゝなくさめにはまつま

【花散里】 13

以利侍利奴部可武女利古与那久已楚末起留、古止
いり侍りぬへかむめりこよなくこそまきるゝこと

宇知曾不可多於本不侍介礼大可太乃世耳志多
うちそふかたおほふ侍けれ大かたの世にした

可不毛乃奈利介礼八者可奈幾武可之加多利毛幾
かふものなりければはかなきむかしかりもき

加寸部幾人春久奈具奈利由久遠末之天以可耳
かすへき人すくなくなりゆくをましていかに

川連く毛末起留、事那具於保左留良武登幾
つれくもまきるゝ事なくおほさるらむとき

古盈給不耳美那以登佐良奈留与奈礼止物遠
こえ給ふにみないとさらなるよなれと物を

以登安者礼止於保之津、遣多流御氣之幾濃
いとあはれとおほしつゝけたる御けしきの

安左可良怒遠奈越人乃御左満可良尔也於本具
あさからぬをなを人の御さまからにやおほく

乃安者礼曾、飛計留
のあはれそゝひける

【花散里】 14

人女奈具阿礼多流屋登八堂知者奈濃
人めなくあれたるやとはたちはなの

花己曾軒乃川万登奈利介礼止八可利乃給部留
花こそ軒のつまとなりけれとはかりの給へる

毛左八以遍登人耳者以止古止奈利介梨登於保之
もさはいへと人にはいとなりけりとおほし

久良部良留丹之於毛天尔波和左止奈具志乃比也可
くらへらるにしもてにはわさとなくしのひやか

耳宇知布流末比給天乃曾幾給部流毛女川良
にうちふるまひ給てのそき給へるもめつら

之幾丹曾部天与仁女奈礼怒御左満奈連八徒良
しきにそへてよにめなれぬ御さまなればつら

左毛和春礼奴部之奈丹也可也登連以乃奈川可之
さもわすれぬへしなにやかやとれいのなつかし

具閑多良比給不毛於保左奴事尔波安良左留部之
くかたらひ給ふもおほさぬ事にはあらさるへし

加利丹毛見給可幾利八遠之奈部多流幾八丹之
かりにも見給かきりはをしなへたるきはにし

【花散里】 15

安良祢八左滿く丹川氣天以婦可比奈之奈止於
あらねはさまくにつけていふかひなしなとお

保左流ゝ八奈介礼者尔也尔久氣那久和連毛人
はさるゝはなけれはにやにくけなくわれも人

毛奈左氣遠加者之津ゝ春具之給奈利介梨
もなさけをかはしつゝすくし給なりけり

曾礼遠安飛奈之登於毛婦人盤止仁閑具耳止
それをあひなしとおもふ人はとにかくにと

宇地加者流遠又古止八利乃世能左可止於毛飛奈之
うちかはるを又ことほりのよのさかとおもひなし

給不安里津流加幾祢毛左也宇丹天阿利左滿加
給ふありつるかきねもさやうにてありさまか

八利耳多流安多利奈利介里
はりにたるあたりなりけり

【須磨】 5

世中以止王川良八之久波之多奈幾事能三
世申いとわつらはしくはしたなき事のみ

万左礼八世女天志良春可本尔安利部天毛己礼与里
まさればせめてしらすかほにありへてもこれより

未左留事毛也止於本之奈利怒可能寸満八昔之
まさる事もやおほしなりぬかのすまは昔し

己曾人乃寸見可奈止毛阿里介礼今八以止里者奈
こそ人のすみかなともありけれ今はいと里はな

連心春古久天安万能家多尔末礼尔奈止聞多
れ心すこくてあまの家たにまれになと聞た

末部止人志計久比多、計多良無寸満井八以止
まへと人しけくひたゝけたらむすまぬはいと

本比那可留部之佐利止天都遠止越左可良无毛
ほひなかるへしさりとて都をとをさからんも

不留里於本川可奈可留部幾遠人王路久楚於本之見
ふる里おほつかなかるへきを人わろくそおほしみ

太留、与呂川乃事幾之閑多行春衛思日津、
たる、よろつの事きしかた行す急思ひつゝ

【須磨】 6

遣多満不耳可那之支己止以止左満く、也宇幾物
けたまふにかなしきこといとさまく、也うき物

止思日寸天川留世毛以万波止寸見者奈礼奈无己止
と思ひすてつる世もいまはとすみはなれんこと

遠於本春尔八以止寸天閑多起己止於本可留中尔毛
をおほすにはいとすてかたきことおほかる中にも

姫君乃安計暮尔曾部天波思奈遣幾給部留左満
姫君のあけ暮にそへては思なけき給へるさま

能心久留之宇哀奈留遠行女久利天毛又安比三
の心くるしう哀なるを行めくりても又あひみ

無事遠可那良春止於本左无丹天太尔奈越一
む事をかならずとおほさんにてたになを一

二日能程与曾く、尔阿可之久良春於利く、多耳
二日の程よそくにあかしくらすおりく、たに

於本川可奈幾物尔於本衣女君毛心本曾宇能三
おほつかなき物におほえ女君も心ほさうのみ

於本衣給部留遠以久止世曾能本止、加幾利安留
おほえ給へるをいくとせそのほと、かきりある

【須磨】 7

見知丹毛安良春安不遠可幾利尔遍多、里遊
みちにもあらずあふをかきりにへたゝりゆ

可无毛佐多女奈幾世尔屋可帝王可累部幾可止
かにもさためなき世にやかてわかるへきかと

天尔毛屋止以三之宇於毛部給部者志能比天毛
てにもやといみしうおもへ給へはしのひても

路止毛尔屋止於本之与留於利く安連止左留心本曾
ろともにやとおほしよるおりくあれとさる心ほそ

可良无海津良乃風与里外尔多知末之留人
からん海つらの風より外にたちましる人

毛奈可良无尔可久良宇太幾御左満耳天比幾久之
もなからんにかくらうたき御さまにてひきくし

多満不良无毛以止川幾奈久我心尔毛中く物思日
たまふらんもいとつきなく我心にも中く物思ひ

乃川万止奈留部幾遠奈止於本之可部春越女君八
のつまとなるへきをなとおほしかへすを女君は

以三之可良无美知尔毛遠久礼幾古衣春太尔安良八止
いみしからんみちにもをくれきこえすにあらはと

【須磨】 8

於毛武計天宇良女之遣尔於本比多利可能花知留
おもむけてうらめしけにおほひたりかの花ちる

里尔毛遠八之可与不事己曾万連奈礼心本曾
里にもをはしかよふ事こそまれなれ心ほそ

久哀奈留御安利左満遠此御可計尔可久礼天
く哀なる御ありさまを此御かけにかくれて

物之多満部八奈計幾奈留左満毛以止己止者利也
物したまへはなけきなるさまもいとことほり也

猶左利耳天毛本乃可尔見天多末末川利可与比多
猶さりにてもほのかに見てたてまつりかよひた

末比之所く人志連怒心遠久多幾多満不
まひし所く人しれぬ心をくたきたまふ

人曾於本可女留入道乃宮与里毛物乃幾己
人そおほかめる入道の宮よりも物のきこ

盈也又以可、止利奈左連无止我御多女津、万
えや又いか、とりなされんと我御ためつ、ま

之介礼止忍比川、御止不良比川祢尔安利昔之
しけれと忍ひつ、御とふらひつねにあり昔し

【須磨】 9

加也宇尔安比於本之哀遠毛見世多満八末之可八
かやうにあひおほし哀をも見せたまはましかは

止宇知思日出多満不尔左毛左満くゝ尔心遠能三川久
とうち思ひ出たまふにさもさまくゝに心をのみつく

春部可利介留人乃御契利可奈止津良久思日幾已衣
すへかりける人の御契りかなとつらく思ひきこえ

多満不三月廿日阿末利能程尔奈无宮己者奈
たまふ三月廿日あまりの程になん宮こはな

連多満比計留人尔以未以止志毛志良勢多満者
れたまひける人にいまいとしもしらせたまは

春多ゝ以止知可不川可宇末川留奈礼多留加幾利
すたゝいとちかふつかうまつりなれたるかきり

七八人八可利御止毛耳天以止可寸可仁出多知
七八人はかり御ともにていとかすかに出たち

多満不左留部幾所くゝ尔御文者可梨字知志
たまふさるへき所くゝに御文はかりうちし

能比多満比之尔毛哀止志能者留者可利可幾川久
のひたまひしにも哀としのはるはかりかきつく

【須磨】 10

比多満部留八見所毛安利怒部可利之可止曾能折
ひたまへるは見所もありぬへかりしかとその折

能古ゝ知能万幾礼尔者可くゝ志宇毛聞遠可寸
のこゝちのまきれにはかくしうも聞をかす

奈尔尔計利二三曰可祢天世尔可久連天於本以殿
なりにけり二三曰かねて世にかくれておほい殿

尔和多利給部利安武志呂車能打屋川連多留尔
にわたり給へりあむしろ車の打やつれたるに

天女車能屋宇耳天可久路部以利多満不毛以止
て女車のやうにてかくろへいたりたまふもいと

哀尔夢止能三曾見怒御可多以止左比之遣尔
哀に夢とのみそ見ぬ御かたいとさひしけに

打安連多留心知之天若君乃御女能止止毛
打あれたる心ちして若君の御めのととも

昔之左不良比之人乃中尔末可天怒可幾利
昔しさふらひし人の中にかてぬかきり

可久和多利多満部留遠女川良之可利聞衣多満不
かくわたりたまへるをめつらしかり聞えたまふ

【須磨】 11

乃本利川止比天見多天末川留尔川計天毛己止尔物
のほりつとひて見たてまつるにつけてもことに物

布可、羅王可幾人く左部世能川称奈幾思日志良
ふかゝらわかき人くさへ世のつねなき思ひしら

連天涙尔久礼多利若君八以止宇川久之宇天左礼
れて涙にくれたり若君はいとうつくしうてされ

波之里遠八之多利比左之幾程尔忘礼怒己曾
はしりをはしたりひさしき程に忘れぬこそ

哀奈礼止天御比左尔寸部給部留御介之支能忍比
哀なれとて御ひさにすへ給へる御けしきの忍ひ

閑多計也於止、毛己奈多尔和多利多満比天太比
かたけもおとゝもこなたにわたりたまひてたひ

女之多満部利川連く尔己毛良勢多満八无程奈尔
めしたまへりつれくにもこませたまはん程なに

止侍良怒昔之物語毛末以利来天聞衣左世无止
と侍らぬ昔し物語もまいる来て聞えさせんと

思多満部連止身能也万比於毛幾尔与里於本也
思たまへれと身のやまひおもきによりおほや

【須磨】 12

遣尔毛川可宇末川良春久良井遠閑部之多天万川利
けにもつかうまつらすくらぬをかへしたてまつり

天侍耳王多久之左満尔八己之能部天奈止物乃幾
て侍にわたくしさまにはこのへてなど物のき

古衣比可く之加留部幾遠今八世中波、可留部幾
こえひかくしかるへきを今は世中は、かるへき

身尔毛侍良称止以知者也幾世能以止遠曾呂志宇
身にも侍らねといちはやき世のいとをそろしう

侍留也可、留御心遠見給不留尔川計天毛以能知
侍る也かゝる御心を見給ふるにつけてもいのち

奈可幾八心宇久思給部良留、世能春衛尔毛侍可奈
なかきは心うく思給へらるゝ世のすゑにも侍かな

安女能志多遠左可佐満尔奈之天毛思給部与良
あめのしたをさかさまになしても思給へよら

佐利之御安利左満遠見給不連八与呂川以止安
さりし御ありさまを見給ふればよろついとあ

知幾奈無止聞衣給天以多宇志本連絡不止阿
ちきなむと聞え給ていたうしほれ給ふとあ

【須磨】 13

流已止毛加、留事毛左起乃世乃武久比尔已曾侍
ることとかゝる事もさきの世のむくひにこそ侍

奈礼八以比毛天由計八堂、三川可良能遠已多利尔
なれはいひもてゆけはたゝみつからのをこたりに

奈无侍末之天可久官志也久遠止良連寸安左者
なん侍ましてかく官しやくをとられすあさは

可奈留已止尔加、川良比天多尔於本也計能可之己
かなることにかゝつらひてたにおほやけのかしこ

末利奈留人乃宇川之左満尔天世中尔安利不留盤
まりなる人のうつしさまにて世中にありふるは

己止耳於毛幾王左止人乃国尔毛志之侍留奈留遠
ことにおもきわさと人の国にもしし侍るなるを

遠久者奈知川可者春部幾左多女奈止毛侍奈留八
遠くはなちつかはすへきさためなとも侍なるは

左満已止奈留川三尔安多流部幾尔已曾侍奈礼尔已
さまことなるつみにあたるへきにこそ侍なれにこ

里奈幾心尔末可世天川連奈久寸久之侍良无毛
りなき心にまかせてつれなくすくし侍らんも

【須磨】 14

以止波、可利於本久已連与里於本幾奈留者知尔能
いとはゝかりおほくこれよりおほきなるはちにの

曾万怒左幾尔世遠能可礼奈无止思多満部多知奴留
そまぬさきに世をのかれななと思たまへちぬる

奈止已万屋可尔聞衣多満不昔之能御物語已院
なとこまやかに聞えたまふ昔しの御物語こ院

能御可止於本之能多満者世之御心者部奈止聞衣出
の御かとおほしのたまはせし御心はへなと聞え出

多満比天御奈越之能袖毛盈比幾者奈知多満者
たまひて御なをしの袖もえひきはなちたまは

怒尔君毛盈心川与久毛天奈之多満者寸若君
ぬに君もえ心つよくもてなしたまはす若君

能何心奈久末幾礼安利幾天已連可礼尔奈聞衣
の何心なくまきれありきてこれかれになれ聞え

多満不遠以三之止於本比多利寸幾侍丹之人遠
たまふをいみしとおほひたりすき侍にし人を

世尔思不多満部王寸、与奈久能三以末尔可奈之比
世に思ふたまへわすゝよなくのみいまにかなしひ

【須磨】 15

侍遠此御已止尔奈无毛之侍与奈良満之可八以可也宇侍を此御ことになんもし侍よならましかはいかやう

尔思曰奈介幾侍良満之与久曾三之可久天加、留に思ひなけき侍らましよくぞみしかくてかゝる

夢遠見春奈利尔介留止思多満部奈久左女侍於左夢を見すなりにけると思たまへなくさめ侍おさ

奈久物之給不可加久与者比寸幾怒留奈可尔止満利なく物し給ふかかくよはひすきぬるなかにとまり

多満比天奈川左比聞衣怒月日也遍多、里多満八无たまひてなつさひ聞えぬ月日やへたゝりたまはん

止思多満部留遠奈无与呂川能已止与里毛可奈之宇侍と思たまへるをなんよろつのことよりもかなしう侍

以丹之部乃人毛満已止尔遠可之安留耳天之毛いにしへの人もまことにをかしあるにてしも

加、留已止尔安多良佐利介利猶左留部幾耳天人農かゝることにあたらしけり猶さるへきにて人の

御可止尔毛加、留多久比於本宇侍介利左礼止比御かともかゝるたくひおほう侍けりされといひ

【須磨】 16

出留婦之安利天已曾佐留事毛侍介礼止左満加宇出るふしありてこそさる事も侍けれとさまかう

左満尔思給部与良武閑多奈久奈无奈止於本久乃さまに思給へよらむかたなくなんなどおほくの

御物可多利聞衣多満不三位乃中将毛末以利安比御物かたり聞えたまふ三位の中将もまいりあひ

多満比天於本美幾奈止末以利多満不程尔夜不計たまひておほみきなとまいりたまふ程に夜ふけ

奴連八止、末利多満比天人、御末部尔左不良八世多満ぬればとゝまりたまひて人、御まへにさふらはせたま

比天物語奈止世左勢給不人与里八已与奈宇ひて物語なとせさせ給ふ人よりはこよう

忍比天於本春中納言君以部者尔可那之宇於毛部留忍ひておほす中納言君いへえにかなしうおもへる

左満遠人志連春哀止於本春人皆志川末利奴留さまを人しれす哀とおほす人皆しつまりぬる

尔止利王幾天可多良比多満不己礼尔与利止満利にとりわきてかたらひたまふこれによりとまり

【須磨】 17

多満部留奈留部之安計奴連八夜婦可宇以天多満部留尔
たまへるなるへしあけぬれば夜ふかういてたまへるに

阿利明能月以止遠可之花乃木止毛漸く左可利
あり明の月いとをかし花の木とも漸くさかり

寸幾天王川可奈留木可計能以止志呂幾庭尔宇
すきてわつかなる木かけのいとしろき庭にう

春久幾利和多利多留曾己者可止奈久可寸見安部
すくきりわたりたるそこはかとなくかすみあへ

天秋能夜乃哀尔於本久多知末左連利寸三乃
て秋の夜の哀におほくたちまされりすみの

未能加宇良无尔遠之可、里天止八可利奈可女多満
まのかうらんにをしかゝりてとはかりなかつたまふ

中納言能君見多天末川利遠久良无止耳也妻止
中納言の君見たてまつりをくらんとにや妻と

遠之安計天為多利又太比女无安良无事己曾思部八
をしあけてゐたり又たひめんあらん事こそ思へは

以止可多介礼加、里計留世遠志良天心屋春久毛
いとたたけれかゝりける世をしらて心やすくも

【須磨】 18

安利怒部可利之月己呂遠佐之毛以曾可天遍多天之
ありぬへかりし月ころをさしもしいそかてへたてし

与奈止能多末部八物毛聞衣春奈无若君能御女能止乃
よなどのたまへは物も聞えすな岩君の御めのとの

宰相能君之天宮能遠末部与里御世宇曾己聞衣
宰相の君して宮のをまへより御せうそこ聞え

多満部利身川可良毛聞衣万本之幾遠可幾久良春
たまへりみつからも聞えまほしきをかきくらす

三多利心知多女良比侍程尔以止夜不可宇出左世多満
みたり心ちためらひ侍程にいと夜ふかう出させたま

婦奈留毛左満可八利多留心知能三之侍可奈心久留
ふなるもさまかはりたる心ちのみし侍かな心くる

之幾人乃以幾太奈幾程八志八之毛屋春可良者世
しき人のいきたなき程はししもやすからはせ

多満八天止聞衣給部連波打奈幾多満比天
たまはてと聞え給へれば打なきたまひて

止利部山毛衣志煙毛万可不屋止海万能塩焼
とりへ山もえし煙もまかふやと海まの塩焼

【須磨】 19

宇良見仁曾行御返止毛奈久打寸之給天曉
うらみにそ行御返ともなく打すし給て曉

能別八加字能三也心川久之奈留思日志利多満部留人毛安
の別はかうのみや心つくしなる思ひしりたまへる人もあ

良无可之止乃給部八以川止奈久別止以不毛之己曾宇多
らんかしとの給へはいつとなく別といふもしこそうた

天侍奈留中尔毛計左八猶多久比安留満之宇思
て侍なる中にもけさは猶たくひあるましよう思

給部良留、程可奈止者奈己惠耳天計尔浅可良春於毛
給へらるゝ程かなとはなこゑにてけに浅からすおも

部利聞衣万本之幾己止毛返、於毛不給部奈可良多、尔
へり聞えまほしきことも返ゝおもふ給へなからたゝに

武春本、連侍程遠遠之者可良世多満部以幾多奈
むすほゝれ侍程ををしはからせたまへいきたな

幾人八見給部无川計天毛中く字幾世能可連可多宇
き人は見給へんつけても中くうき世のかれかたう

思給部良礼奴部介礼八心川与宇思給部奈之天以曾幾万
思給へられぬへければ心つよう思給へなしていそきま

【須磨】 20

可天侍止聞衣給不出多満不程遠人く能曾幾天見
かて侍と聞え給ふ出たまふ程を人くのそきて見

多天末川留以利閑多能月以止安可幾尔以止ゝ奈満
たてまつるいりかたの月いとあかきにいとゝなま

免可之宇幾与良耳天物遠於本比多留左満止良大
めかしうきよらにて物をおほひたるさまとら大

可見多尔奈幾怒部之満之天以王遣奈久遠八世
かみたになきぬへしましていわけなくをはせ

之程与里見多天末川利曾女天之人く奈礼八
し程より見たてまつりそめてし人くなれば

多止之部奈幾御安利左満遠以三之止思万
たとしへなき御ありさまをいみしと思ま

己止也御返之
ことや御返し

奈幾人乃別也以止ゝ遍多ゝ良无煙止
なき人の別やいとゝへたゝらん煙と

奈利之雲為奈良天八止利曾部天哀能三川幾
なりし雲みならてはとりそへて哀のみつき

【須磨】 21

出多満比奴留奈已利遊、之幾末天奈幾安部利殿
出たまひぬるなこりゆ、しまてなきあへり殿

仁遠波之多礼八我御方能人く毛末止呂万
にをはしたれは我御方の人くもまところま

佐利介留遣之幾耳天所く尔武連為天安左満之止
さりけるけしきにて所くむれぬてあさましと

能三世越於毛部留遣之幾也左不良比尔八志多之宇津
のみ世をおもへるけしき也さふらひにはしたしうつ

可宇末川留加幾利八御止毛尔末以留部幾心末宇計之天
かうまつるかきりは御ともにまいるへき心まうけして

王多久之能別於之武程耳也人女毛奈之佐良怒
わたくしの別おしむ程にや人めもなしさらぬ

人八止不良比末以留毛於毛幾止可女阿利王川良八之
人はとふらひまいるもおもきとかめありわつらはし

幾事末左礼八所世久川止比之武末車乃可多毛
き事まされは所せくつとひしむま車のかたも

奈久左比之幾耳世八字幾物成介利止於本之志良留
なくさひしきに世はうき物成けりとおほししらる

【須磨】 22

大者无所奈止毛可多部八知利波三天多、三所、比幾
大はん所なともかたへはちりはみてた、み所、ひき

返之多利見留程太尔加、利末之天以可尔哀由可无
返したり見る程たにか、りましていかに哀ゆかん

止於本春尔之乃堂以尔王多利給部連八見加宇之毛
とおほすにしのたいにわたり給へればみかうしも

末以良天奈可女安可之給介礼八寸能已奈止尔王可幾
まいらてなかめあかし給ければすのこなとにわかき

王良八部者所、尔婦之天以万曾於幾左波久止
わらはへは所、にふしていまそおきさはくと

能并寸可多止毛遠可之宇天以津遠見給不尔毛
のぬすかたともをかしうていつを見給ふにも

心本曾宇止之月部八加、留人く毛惠之毛安利
心ほそうとし月へはか、る人くもゑしもあり

者天、也行知良无奈止佐之毛安留満之幾已止
はて、や行ちらんなとさしもあるましきこと

左部御女能三止満利計利与部八志可く之天夜不計
さへ御めのみとまりけりよへはしかくして夜ふけ

【須磨】 23

丹之可八奈无連以乃思者寸奈留左滿耳也於本之奈之
にしかはなんれいの思はするさまにやおほしなし

津留加久天侍程多尔御女可礼春止思不遠可久世遠
つるかて侍程たに御めかれすと思ふをかく世を

波奈留、幾八尔者心久留之幾事能遠能川可良於
はなるゝきはには心くるしき事のをつからお

本可利介留遠比多屋己毛利耳天也八川幾奈幾世尔
ほかりけるをひたやこもりにてやはつきなき世に

人尔毛奈左計奈幾物止心遠可礼者天无正以止遠
人にもなさけなき物と心をかれはてんといとを

志宇天奈止聞衣多滿部者可、留世遠見留与利外尔
しうてなと聞えたまへはかゝる世を見るより外に

於遠毛八寸奈留事者何事尔可止波可利能給天
おをもはする事は何事にかとはかりの給て

以三之止於本之以礼多留左滿人与里己止奈留遠己止
いみしとおほしいれたるさま人よりことなるをこと

王利曾可之父美己八以於呂可尔毛止与利於本之
わりそかし父みこはいおろかにもとよりおほし

【須磨】 24

津幾尔介留尔滿之天世能幾古衣遠王川良者
つきにけるにまして世のきこえをわつらは

之可利天遠止川連幾古衣多滿八寸御止不良比尔
しかりてをとつれきこえたまはす御とふらひに

堂尔和多利多滿八怒遠人乃見留良无事毛者川
たにわたりたまはぬを人の見るらん事もはつ

可之久中く志良礼多天末川良天屋三奈滿之遠
かしく中くしられたてまつてやみなましを

末ゝ八ゝ能北乃可多奈止乃尔波可奈利之左以者比乃
まゝはゝの北のかたなどにはかなりしさいはひの

安者太ゝ之左安奈由ゝ之也思不人可多くゝ尔
あはたゝしさあなゆゝしや思ふ人かたくゝに

川計天別多滿不人可奈止能多滿比介留遠佐留
つけて別たまふ人かなとのたまひけるをさる

多与利安利天毛利聞給不尔毛以三之字心宇計
たよりありてもり聞給ふにもいみしう心うけ

介礼八己連与里毛多衣天遠止川連聞衣多滿者
ければこれよりもたえてをとつれ聞えたまは

【須磨】 25

春又多乃毛之幾人毛奈久計爾曾哀奈留御安利左滿
す又たのもしき人もなくけにそ哀なる御ありさま

奈留程世尔由留左礼可多宇天止之月遠部八以者
なる程世にゆるされかたうてとし月をへはいは

本乃中尔毛武可部多天万川良无多、以末八人幾、
ほの中にもむかへたてまつらんだ、いまは人き、

能以止川幾奈可留部幾也於本屋計尔可之己未利
のいときなかるへき也おほやけにかしこまり

聞由留人八安幾良可奈留月日能影遠多尔見春
聞ゆる人はあきらかなる月日の影をたに見す

也春良可尔身遠布留未不己止毛以止川三於毛可也阿
やすらかに身をふるまふこともいとおもかもかあ

屋万知奈介礼止佐留部幾尔己曾加、留己止毛
やまちなけれとさるへきにこそかゝることも

安良女止思不尔満之天人久寸留八連以奈幾己止
あらめと思ふにまして人くするはれいなきこと

奈留遠比多於毛武幾耳物久留遠志幾世耳天猶
なるをひたおもむきに物くるをしき世にて猶

【須磨】 26

多知末左留己止毛己礼与利安利奈无止聞衣志良
たちまさることもこれよりありなんと聞えしち

勢多満不日多久留未天於本止乃己毛連利
せたまふ日たくるまておほとこのこもれり

曾知能宮三位乃中将奈止遠八之多利多以
そちの宮三位の中將などをはしたりたい

女无志多満八无止天御奈遠之奈止多天末川留
めんしたまはんとて御なをしなとたてまつる

久良井奈幾人八止天武毛无乃奈越之中く以止
くらあなき人はとてむもんのなをし中くいと

奈川可之幾遠幾多満比天宇知屋川連多満
なつかしきをきたまひてうちやつれたま

部留以止女天多之御比无可幾多満不止天幾也宇
へるいとめてたし御ひんかきたまふとてきやう

太以尔与里多満部留尔於毛也世多満部留影乃
たいによりたまへるにおもやせたまへる影の

我奈可良以止安天耳幾与良奈礼八己与奈宇己曾
我なからいとあてにきよらなればこよなうこそ

【須磨】 27

遠止呂部尔介礼此可計乃屋宇耳也屋世天侍
をとりへにけれ此かけのやうにややせて侍

哀奈留王左可奈止能給部者女君涙遠日止女宇計
哀なるわさかなとの給へは女君涙をひとめうけ

天見遠己世多満部留以止忍比可多之
てみをこせたまへると忍ひかたし

身八可久天左寸良部怒止毛君可安多利佐良怒
身はかくてさすらへぬとも君かあたりさらぬ

鏡能可計八者奈礼之止聞衣多満部八
鏡のかけはなれしと聞えたまへは

別天毛影多尔止満留物奈良八鏡遠見天毛
別ても影たにとまる物ならは鏡を見ても

奈久左三天満之波之良可久礼尔為可久礼天涙
なくさみてましはしらかくれにあかくれて涙

遠末幾良八之給部留左満猶己、良見留中尔太久
をまきはし給へるさま猶こゝら見る中にたく

比奈可利計止於本之志良流、人乃御安利左満也美己八
ひなかりけりとおほししるゝ人の御ありさま也みこは

【須磨】 28

哀奈留御物語聞衣多満比天久留、程尔閑部利給怒
哀なる御物語聞えたまひてくるゝ程にかへり給ぬ

花知留里乃心本曾計尔於本之天川祢尔聞衣多
花ちる里の心ほそけにおほしてつねに聞えた

末不毛己止八利耳天可能尔毛以万一堂比見
まふもことわりにてかの人にもいま一たひ見

春八津良之止也思八无止於本世八其世八又出
すはつらしと思はんとおほせば其世は又出

多満不物可良以止物宇久天以多宇不可之天
たまふ物からいと物うくていたうふかして

遠八之多礼八女御八加久可寸末部耳也給比
をはしたれば女御はかくかすまへにや給ひ

天多知与良世給部留己止久与呂己比聞衣
てたちよらせ給へることくよろこひ聞え

給不左満可幾津、介无毛宇留佐之以止以三
給ふさまかきつゝけんもうるさしいといみ

志宇心本曾幾御安利左満多、此御可計尔
しう心ほそき御ありさまたゝ此御かけに

【須磨】 29

加久礼天寸久比給部留止之月以止、阿連末左かくれてすくひ給へるとし月いと、あれまさ

良无程於本之屋良連天止能、宇知以止可寸可らん程おほしやられてとの、うちいとかすか

奈利月於本呂尔佐之出天池比呂久山木本なり月おほろにさし出て池ひろく山木ふ

可幾和多利心本曾計尔見遊留尔毛寸三者奈礼かきわたり心ほそけに見ゆるにもすみはなれ

多良无以者本乃中於本之屋留丹之於毛天八可不之たらんいはほの中おほしやるにしおもてはかふし

毛和多利給者寸也止宇知久之天於本之介留尔もわたり給はすやとうちくしておほしけるに

哀曾部多留月影乃奈未女可之宇志女也可奈留毛哀そへたる月影のなまめかしうしめやかなるも

宇知婦留末比多満部留匂比尔留物奈久天以止忍うちふるまひたまへる匂ひにる物なくていと忍

比屋可尔以利給部者春古之以左利出天也可天月ひやかにいり給へはすこしいさり出てやかて月

【須磨】 30

遠見天遠八寸又古、尔御物可多利乃程尔安計を見てをはす又こゝに御物かたりの程にあげ

閑多知己宇奈利尔介利三之可能夜乃程也可者かたちこうなりにけりみしかの夜の程やかは

可利乃堂比女无毛又八盈之毛也止於毛不已曾己止かりのたひめんも又はえしもやとおもふこそこと

那之耳天寸久之津留年己呂毛久也之宇幾之なしにてすくしつる年ころもくやしうきし

可多由久左幾乃多女之尔奈留部幾身耳天かたゆくさきのためしになるへき身にて

何止奈久心乃止満留世奈久己曾安利介礼止何となく心のとまる世なくこそありけれと

寸幾丹之可多能事止毛乃多満比天鳥毛すきにしかたの事とものたまひて鳥も

志者く奈計者世耳川、三天以曾幾出多満不しはくなけは世につゝみていそき出たまふ

連以乃月能入者川留程尔与曾部良礼天れいの月の入はつる程によそへられて

【須磨】 31

哀奈利女君乃已幾御曾尔宇川利天計尔奴留
哀なり女君のこき御そにうつりてけにぬる

流可本奈礼八
るかほなれは

月影乃也止連留袖八世者久止毛止女天毛見
月影のやとれる袖はせはくともとめても見

者也安可怒光遠以三之止於本比多留可久留之
はやあかぬ光をいみしとおほひたるかくるし

介礼八可川八奈久左女聞衣多満不
ければかつはなくさめ聞えたまふ

行女久利川井尔春武部幾月影乃志八
行めくりつみにすむへき月影のしは

之久毛良无空奈奈可女曾思部八者可奈之也
しくもらん空ななかめそ思へははかなしや

堂ゝ志良怒涙乃三己曾心遠久良春物奈礼奈
たゝしらぬ涙のみこそ心をくらす物なれな

止能給比天安計久礼乃程尔出多満比怒与呂
との給ひてあけくれの程に出たまひぬよろ

【須磨】 32

津乃事止毛志多ゝ女左世給不志多志宇川可宇未
つの事ともしたゝめさせ給ふしたしうつかうま

津利世尔奈比可怒可幾利能人く止乃ゝ事止
つり世になひかぬかきりの人くとのゝ事と

里遠己奈不部幾可三志毛佐多女遠可世給不
りをこなふへきかみしもさためをかせ給ふ

御止毛尔志多比聞遊留加幾利八又衣利出多
御ともにしたひ聞ゆるかきりは又えり出た

末部利山里能御寸見乃久八衣佐良春止利
まへり山里の御すみのくはえさらすと

川可比給部幾物止毛己止佐良与曾比奈久己止
つかひ給へき物ともことさらよそひなくこと

曾幾天又左留部幾文集奈止入多留波己
そきて又さるへき文集なと入たるはこ

左天八琴日止川曾毛多世給ふ所世幾
さては琴ひとつそもたせ給ふ所せき

御天宇止者奈也可奈留御与曾比奈戸佐良尔
御てうとはなやかなる御よそひなとさらに

【須磨】 33

久之多満八寸安也志能山可川女起天毛天奈之給なくしたまはすあやしの山かつめきてもてなし給ふ

左不良婦人く／＼与里八之女与呂川乃事毛皆さふらふ人く／＼よりはしめよろつの事も皆

丹之能堂比爾聞衣王多之給不里也宇之給不にしのたひに聞えわたし給ふりやうし給ふ

御左宇美未起与利八之女天左留部幾所く／＼乃券毛无御さうみまきよりはしめてさるへき所くの券もん

多川文奈止美奈多天末川利遠幾給不曾礼たつ文なとみなたてまつりをき給ふそれ

与利外乃御久良未知於左女殿奈止以不己止より外の御くらまちおさめ殿なといふこと

末天少納言遠波可く／＼之幾物尔見遠幾まて少納言をはかくしき物に見をき

給部連波志多之幾介比之止毛久之天志給へれはしたしきけひしともくしてし

路之女寸部幾左満止毛能多満比安川久王可ろしめすへきさまものたまひあつくわか

【須磨】 34

御可多能中務中将奈止屋宇能人く／＼川連奈幾御かたの中務中将なとやうの人く／＼つれなき

御毛天奈之奈可良見多天万川留程己曾奈御もてなしなから見たてまつる程こそな

久左免津連何事尔川計天可止思部止毛くさめつれ何事につけてかと思へとも

以能知安利天此世耳又可部留也宇毛安良无遠いのちありて此世に又かへるやうもあらんを

待川介无止於毛八无人八己奈多尔左不良部待つけんとおもはん人はこなたにさふらへ

止乃給比天可三志毛皆末宇乃本良勢給不との給ひてかみしも皆まうのほらせ給ふ

若君乃御女能止多知花知留里奈止尔毛若君の御めのとたち花ちる里なにも

遠可之幾左満乃八左留物耳天末女く／＼志幾寸をかしきさまのはさる物にてまめく

知尔於本志与良怒己止奈之内侍乃可三能御毛止尔ちにおほしやらぬことなし内侍のかたの御もとに

【須磨】 35

王利奈久忍天聞衣多満不止者世多満八怒毛
わりなく忍て聞えたまふとはせたまはぬも

己止八利尔思多満部奈可良以万波止世遠思者部
ことほりに思たまへなからいまはと世を思はへ

流本止乃宇左毛川良左毛多久比奈幾己止尔
るほどのうさもつらさもたくひなきことに

己曾者部利介礼
こそはへりけれ

安不瀬奈幾涙乃川尔志川三之也奈可留、
あふ瀬なき涙の川にしつみしやなかるゝ

三遠能八之女奈利介无止思給部以川留能三奈无
みをのしめなりけんと思給へいつるのみなん

川三能可礼可多宇侍介留美知能程毛安也宇介礼八
つみのかれかたう侍けるみちの程もあやうければ

己満可尔八聞衣給者春女以止以三之宇於本衣多
こまかには聞え給はす女いといみしうおほえた

末不天忍給部止御袖与利安未留毛所世宇奈无
まふて忍給へと御袖よりあまるも所せうなん

【須磨】 36

涙川宇可不美奈八毛幾衣怒部之奈可礼天
涙川うかふみなはもきえぬへしなかれて

後乃世遠毛末多寸天奈久く見多礼可幾多
後のせをもまたすてなくみたれかきた

末部留御手以止遠可之遣也以万一多比堂比
まへる御手いとをかしけいま一たひたひ

女奈久天也止於本春八猶久知於之介礼止於本之
めなくてやとおほすは猶くちおしけれとおほし

閨部之天宇之止於本之奈寸遊可利於本宇天於
かへしてうしとおほしなすゆかりおほうてお

本呂遣奈良春忍比多満部八以止安奈可知尔毛幾
ほろけならす忍ひたまへはいとあなちにもき

古衣多満八寸奈利怒安春出多満八无止天乃暮
こえたまはすなりぬあす出たまはんとての暮

尔八古院乃御者可遠可三多天末川利給不止天
には古院の御はかをかみてまつり給ふとて

北山部末婦天給不曉可計天月出比奈礼八末川
北山へまふて給ふ曉かけて月出比なればまつ

【須磨】 37

入道乃宮尔末宇天給不知可幾見春能末部尔
入道の宮にまうて給ふちかきみすのまへに

遠満之末以利天御三川可良聞衣給春宮能御
をましまいりて御みつから聞え給春宮の御

己止遠以三之宇字之呂女多起物尔思聞衣給不
ことをいみしうしろめたき物に思聞え給ふ

閑多見尔心不可幾止知能御物可多利八与呂川
かたみに心ふかきとちの御物かたりはよろつ

哀末左利介无可之奈川可之宇女天多幾御遣
哀まさりけんかしなつかしうめてたき御け

者比乃昔之尔可八良怒尔津良可利之御心者部
はひの昔しにかはらぬにつらかりし御心はへ

毛可寸免聞衣末本之介礼止以万佐良尔宇多
もかすめ聞えまほしけれといまさらうた

天止於本左留部之我御心尔毛中く以万比止
てとおほさるへし我御心にも中くいまひと

幾八見多礼末佐利怒部介礼八祢无之閑部之天
きはみたれまさりぬへければねんしかへして

【須磨】 38

堂、可久思可計怒川三尔安多利侍毛思給比
た、かく思かけぬつみにあたり侍も思給ひ

安者寸留己止乃比止婦之尔奈无曾良毛遠曾
あはすることのひとふしになんぞらをもそ

路志宇侍遠之遣奈幾身八奈幾尔奈之天毛
ろしう侍をしけなき身はなきになしても

宮乃御世多尔己止奈久遠八之末左波者止
宮の御世たにことなくをはしまさはとは

乃三聞衣多満不曾己止八利奈留也宮毛見奈
のみ聞えたまふそことはりなるや宮もみな

於本之志良流、事尔之安礼八御心乃三字
おほししらるゝ事にしあれば御心のみう

己幾天聞衣屋利多満者寸大將殿八与呂
こきて聞えやりたまはず大將殿はよろ

川能事可幾安川女於本之川、遣天奈幾多満
つの事かきあつめおほしつゝけてなきたま

部留介之幾以止川幾世春奈万女幾堂利
へるけしきいとつきせすなまめきたり

【須磨】 39

御山尔末比利侍遠御己止川天也止聞衣多満不
御山にまひり侍を御ことつてやと聞えたまふ

尔止三尔物毛乃多満者春八利奈久太女良比給不
にとみに物ものたまはすはりなくためらひ給ふ

御遣之幾奈利

御けしきなり

見之八奈久安留八可那之幾世能者天遠曾武
見しはなくあるはかなしき世のはてをそむ

幾之可比毛奈久く曾婦留以三之幾御心未止
きしかひもなくくそふるいみしき御心まと

比止毛尔於本之安川武留事止毛盈曾川、遣
ひとにおほしあつむる事ともえそつ、け

左世多満八怒
させたまはぬ

別多尔可奈之幾己止八川幾丹之遠又曾此
別たにかなしきことはつきにしを又そ此

世乃宇左八末左礼留月待出天出多満不御止毛尔
世のうさはまされる月待出て出たまふ御ともに

【須磨】 40

堂、五六人者可利志毛人毛武川末之幾可幾
た、五六人はかりしも人もむつまじきかき

里之天御武万耳天曾於者寸留佐良奈留己止
りして御むまにてそおはするさらなること

奈礼止安利之世能御安利幾尔己止奈利皆以止可
なれとありし世の御ありきにことなり皆いとかな

奈之宇思不中尔可能美曾幾能日可利能御寸以
なしう思ふ中にかのみそきの日かりの御すい

志无耳天川可不末川利之右近能曾宇乃藏人
しんにてつかふまつりし右近のそのの藏人

宇部幾加宇不利毛程寸幾津留遠川井尔御
うへきかうふりも程すきつるをつめに御

不多遣川良連天川可左毛止良礼天波之多奈
ふたけつられてつかさもとられてはしたな

介礼八御止毛尔万以留宇知奈利可毛能志毛乃
ければ御ともにまいるうちなりかものしもの

三也之呂遠可礼止見王多春程不止思日出
みやしろをかれとみわたす程ふと思ひ出

【須磨】 41

良礼天於利天御武方能久知遠止留
られておりて御むまのくちをとる

引川連天安不比可左志、曾能可三遠思部者川
引つれてあふひかさし、そのかみを思へはつ

良之加毛能三川可幾止以不遠遣耳以可尔於
らしかものみつかさきといふをけにいかにお

毛不良无人与利遣尔者奈也可奈利之物遠止於本
もふらん人よりけにはなやかなりし物をとおほ

寸毛心久留之君毛御馬与利於利給比天三也志
すも心くるし君も御馬よりおり給ひてみやし

路乃可多遠於可三給不神尔末可利申多満不
ろのかたをおかみ給ふ神にまかり申たまふ

宇幾世遠波今曾王可留、止、万良无名遠八
うき世をは今そわかる、と、まらん名をは

多、春能神尔末可世天止乃多満不左満毛乃女
た、すの神にまかせてとのたまふさまものめ

天寸留王可幾人耳天身丹之三夭哀尔女天多之
てするわかき人にて身にしみて哀にめてたし

【須磨】 42

止見多天末川留御山尔末宇天給天遠八之満之、
と見たてまつる御山にまうて給てをはしまし、

御安利左満多、女能末部乃屋宇尔於本之出良流加幾
御ありさまた、めのまへのやうにおほし出らるかき

里奈幾耳天毛世尔奈久奈利奴留人曾以者无可
りなきにても世になくなりぬる人そいはんか

太奈久久知於之幾王左奈利介留与呂津乃
たなくくちをしきわさなりけるよろつつ

己止遠奈久く申多満不天毛其己止和利遠
ことをなくく申たまふても其ことわりを

安良八丹毛盈宇計多満者利多満者年八左者可利
あらはにもえうけたまはりたまはねはさはかり

於本之能多満者世之左満く乃御由以己无八以川
おほしのたまはせしさまくの御ゆいこんはいつ

知可幾衣宇世遺无止以不可比奈之御者可八見
ちかきえうせけんといふかひなし御はかはみ

地乃草志遺久奈利天王計入給不程以止、
ちの草しけくなりてわけ入給ふ程いと、

【須磨】 43

露介幾尔月毛雲可久礼天毛利能木多知己婦
露けきに月も雲かくれてもりの木たちこふ

可久心寸己之可部利出无可多毛奈幾心知之天遠
かく心すこしかへり出んかたもなき心ちしてを

可三多満不尔安利之御於毛可計左也可尔見衣多満
かみたまふにありし御おもかけさやかに見えたま

部留曾、路左武幾程也
へるぞ、ろさむき程也

奈幾可計也以可、見留良无与曾部津、奈可武留
なきかけやいか、見るらんよそへつ、なかむる

月能雲可久礼奴留安計者川留本止尔閑部利多
月の雲かくれぬるあけはつるほとにかへりた

満比天春宮尔毛御世字曾己聞衣多満不王命
まひて春宮にも御せうそこ聞えたまふ王命

婦遠御可八利止天左不良八世多満部八其川本年耳
婦を御かはりとてさふらはせたまへは其つぼねに

止天介不奈无都者奈連侍又末以利侍良春
とてけふなん都はなれ侍又まいり侍らす

【須磨】 44

奈利奴留奈无安末多能字礼部尔万佐利天思多
なりぬるなんあまたのうれへにまさりて思た

末部良礼侍与呂川遠之波可利天遣以之給部
まへられ侍よろつをしはかりてけいし給へ

以川可又春能都乃花遠三无時宇之奈部留山
いつか又春の都の花をみん時うしなへる山

可川丹之天桜乃知利寸幾多留枝尔川計多満
かつにして桜のちりすきたる枝につけたま

部利可久奈无止御良无世左寸礼八遠左奈幾御心
へりかくなんと御らんせさはをさなき御心

知尔毛末女多知天遠八之末寸御返以可、
ちにもまめたちてをはします御返いか、

物之侍良无止計以春礼八志八之三怒多耳恋
物し侍らんとけいすればしはしみぬたに恋

之幾物遠止越久八末之天以可尔止以部
しき物をとくはましていかにといへ

可之止乃多満者寸物者可奈能御返也止哀尔
かしとのたまはす物はかなの御返やと哀に

【須磨】 45

見多天末川留安知幾奈幾已止尔御心遠久多幾
見たてまつるあちなきことに御心をくたき

給比之昔之能已止於利く乃御安利左満思川く
給ひし昔しのことおりくの御ありさま思つゝ

遣良留く丹毛物思奈久天我毛人毛寸久比給部
けらるゝにも物思なくて我も人もすくひ給へ

部可利計留世遠心止於本之奈計幾介留遠久也之宇
へかりける世を心とおほしなけけるをくやしう

王可心日止川尔加く良无已止能屋宇丹曾於本由留御
わか心ひとつにかゝらんことのやうにそおほゆる御

返八佐良尔聞衣左世也利侍良春遠末部尔八遣以之
返はさらに聞えさせやり侍らすをまへにはけいし

侍怒心本曾計尔於本之女之多留御遣之幾毛
侍ぬ心ほそけにおほしめしたる御けしきも

以三之久奈无止曾己者可止奈久心乃三多礼
いみしくなんとそこはかとなく心のみたれ

介留奈留部之
けるなるへし

【須磨】 46

佐幾天止久知留八字遣礼止行春八花農
さきてとくちるはうけれと行春は花の

都遠多知婦利見与時之安良者止聞衣天奈
都をたち歸り見よ時しあらはと聞えてな

己利毛哀奈留物語遠志川く比止宮能内忍天
こりも哀なる物語をしつゝひと宮の内忍て

奈幾安部利比止女毛見多天末川連留人八加久於
なきあへりひとめも見たてまつれる人はかくお

本之久川遠連奴留御安利左満遠奈計幾於之三
ほしくつをれぬる御ありさまをなけきおしみ

聞衣怒人奈之末之天川祢尔万以利奈礼多利
聞えぬ人なしましてつねにまいりなれたり

志八志利遠与比給満之幾遠左女美可八也宇
しはしりをよひ給ましきをさめみかはやう

奈万之天安利可多幾御返利三能志多奈利津留遠
なましてありかたき御返りみのしたなりつるを

志八之耳天毛見多天末川良怒程屋部无止思奈
しはしにても見たてまつらぬ程やへんと思な

【須磨】 47

計幾介利大可多能世乃人毛誰可八与呂之久思日
けきけり大かたの世の人も誰かはよろしく思ひ

聞衣無奈、川尔奈利多満比之此可多御可止能遠末
聞えむな、つになりたまひし此かた御かとのをま

部尔夜留比留左不良比給比天曾宇之給己止能奈
へに夜るひるさふらひ給ひてそうし給ことゝな

良怒八奈可利之可八此御以多者利尔加、良怒人
らぬはなかりしかは此御いたはりにかゝらぬ人

奈久御止久遠与呂己者怒也八安利之屋无
なく御とくをよろこはぬやはありしやん

己止奈幾可无多知女弁官奈止乃内尔毛於本
ことなきかんだちめ弁官などの内にもおほ

可利其与里志毛八数志良怒遠思志良怒尔八
かり其よりしものは数しらぬを思しらぬには

安良祢止佐之安多利天以知者也幾世遠思者
あらねとさしあたりていちはやく世を思は

波可利天万以利与留毛奈之世由春利天於之三
はかりてまいりよるもなし世ゆすりておしみ

【須磨】 48

聞衣志多尔八大也計遠曾之里宇良見多天万
聞えしたには大やけをそしりうらみたま

川連止身遠春天、止不良比万以良无丹毛何乃
つれと身をすて、とふらひまいらんにも何の

可比可八止思不耳也可、留於利八人王呂久宇良
かひかはと思ふにやかゝるおりは人わろくうら

免之幾人於本久世能中八安知幾奈幾物
めしき人おほく世の中はあちきなき物

加奈止乃三与呂川尔川計天於本春其日八女君
かなとのみよろつにつけておほす其日は女君

尔御物可多利能止可尔聞衣久良之給天連以乃夜
に御物かたりのとかに聞えくらし給てれいの夜

不可久出給不可利乃御衣奈止多比乃御与曾比以多
ふかく出給ふかりの御衣なとたひの御よそひいた

久屋川之給比天月出尔介利奈猶寸己之
くやつし給ひて月出にけりな猶すこし

出天見多尔遠久利給部可之以可尔聞由部幾
出て見たにをくり給へかしいかに聞ゆへき

【須磨】 49

己止御本久川毛利尔介止御本衣无止寸良无日止比
ことおほくつもりにけりとおほえんとすらんひとひ

不川可多満左可尔遍多川留於利多耳安也之宇以不世幾
ふつかたまさかにへたつるおりたにあやしういふせき

心知寸留物遠止天見春末幾安計天波之尔以
心ちする物をとてみすまきあけてはしにい

左奈比聞衣給部八女君奈幾志川三多女良比天以左
さなひ聞え給へは女君なきしつみためらひていさ

里出多満部留月影尔以三之宇遠可之計耳天為給部利
り出たまへる月影にいみしうをかしけにてゐ給へり

我身可久天者可奈幾世遠王可礼奈八以可奈留左満耳
我身かくてはかなき世をわかれなはいかなるさまに

左寸良部給八无止之呂女多久可奈之介礼止於本
さすらへ給はんとうしろめたくなしけれとおほ

之以利多留尔以止、志可留部介礼八
しいりたるにいとゝしかるへければ

以遣留世乃別遠志良天契り川、命遠人尔
いける世の別をしらて契りつゝ命を人に

【須磨】 50

可幾利計留可奈波可奈之奈止安左波可尔聞衣多満部八
かきりけるかなはかなしなどあさはかに聞えたまへは

於之閑良怒以能知尔可部天免能末部乃別遠志
おしからぬいのちにかへてめのまへの別をし

波之止、女天之哉計尔左曾於本左留良无止
はしとゝめてし哉けにさそおほさるらんと

以止見春天可多介礼止安計者天八波之多奈
いと見すてかたけれとあけはてははしたな

可留部幾尔与里以曾幾出多満比怒見知寸可良
かるへきによりいそき出たまひぬみちすから

思出給不尔毛於毛可計尔川止曾比天武祢毛不多
思出給ふにもおもかけにつとそひてむねもふた

加利奈可良御舟尔能利給怒日奈可幾比奈礼八
かりながら御舟にのり給ぬ日なかき比なれば

遠比風左部曾比天末多左留能時八可利尔可
をひ風さへそひてまたさるの時ばかりにか

能浦尔川幾給比怒加利曾女乃三知耳天毛可、留
の浦につき給ひぬかりそめのみちにてもかゝる

【須磨】 51

旅遠奈良比多満八奴心知耳心本曾左毛遠可之左毛
旅をならひたまはぬ心に心ほそさもをかしさも

女川良可奈利於本衣止乃止以比介留所八以多宇安連天
めつらかなりおほえとのといひける所はいたうあれて

松八良八可利曾志留志奈留

松はらはかりそしるしなる

可良国尔名遠能己之介留人与利毛行惠志良連
から国に名をのこしける人よりも行系しられ

奴以恵為遠也世无奈幾左尔与寸留波乃可川婦留
ぬいゑぬをやせんきさによする波のかつ歸る

遠見給比天宇良山之久毛止打寸之多満部留
を見給ひてうらしくもと打すしまへる

左満佐留世乃不留己止奈礼止女川良志宇幾、奈左礼
さまさる世のふることなれとめつらしうき、なされ

可那之止乃三御止毛能人く思部利打可部利見給部留
かなしとのみ御ともの人く思へり打かへり見給へる

尔己之可多能山八霞者留可耳天満己止尔三千里
にこしかたの山は霞はるかにてまことに三千里

【須磨】 52

能外乃心知寸留尔可比乃志川久毛多衣可多之
の外の心ちするにかひのしつくもたえかたし

古郷遠嶺乃霞八部多川連止奈可武留空八於
古郷を嶺の霞はへたつれとなかむる空はお

奈之雲為可川良可良怒人奈久奈无遠八寸部幾
なし雲ぬかつらからぬ人なくなんをはすへき

所八行平中納言乃毛之本多礼川、王比介留家
所は行平中納言のもしほたれつゝわひける家

井知可幾和多利也介利海川良八也、以利天哀尔
ぬちかきわたり也けり海つらはやゝいりて哀に

寸己計奈留山奈可也可幾能左満与里八之女天女川
すこけなる山なか也かきのさまよりはしめてめつ

羅可耳見給不可也屋止毛芦不計留良宇女久屋奈
らかに見給ふかや屋とも芦ふけるらうめく屋な

止遠可之宇志川良比奈之多留所尔川計多留御寸
とをかしうしつらひなしたる所につけたる御す

末為屋可八利天加、留折奈良春八遠可之宇安利奈
まぬやかはりてかゝる折ならすはをかしうありな

【須磨】 53

満之止昔之能御心乃寸左比於本之以川知可幾所く
ましと昔しの御心のすさおほしいつちかき所く

能見左宇能川可左女志天左留部幾事止毛奈止
のみさうのつかさめしてさるへき事ともなど

与之幾与能安曾无志多之幾遣比之耳天於本
よしきよのあそんしたしきけひしにておほ

勢遠己奈不毛哀奈利時乃未耳以止見所安利天
せをこなふも哀なり時のまにいと見所ありて

志奈左世多満不水不可宇也利奈之宇部木奈止之天
しなさせたまふ水ふかうやりなしうへ木なとして

以万以止志川末里多満不心知宇川、奈良春国
いまいとしつまりたまふ心ちうつ、ならす国

能可三毛志多之幾殿人奈礼八忍比天心与世
のかみもしたしき殿人なれば忍びて心よせ

川可宇末川留加、留御多比所止毛奈宇人左八可之
つかうまつるかゝる御たひ所ともなう人ささはかし

介礼止毛者可く志宇物遠毛乃給比安者春部幾
けれどもはかくしう物をもの給ひあはすへき

【須磨】 54

人之奈介礼八志良奴国乃心知之天以止武毛礼
人しなければしらぬ国の心ちしていとむもれ

以多久以可天止之月遠寸久左満之止於本之屋
いたくいかてとし月をすくさましとおほしや

良留屋宇く己止志川万里侍尔長安女能比耳奈利
らるやうくことしつまり侍に長あめの比になり

天京能己止毛於本之屋良留、尔恋之幾人於本久
て京のこともおほしやらるゝに恋しき人おほく

女君能於本之多利之左満春宮乃御己止若君乃
女君のおほしたりしさま春宮の御こと若君の

何心毛奈久未幾礼多満比之奈止遠波之女古、
何心もなくまきたまひしなとをはしめこゝ

可之己思屋利聞衣給不京部人以多之多天給不二
かしこ思やり聞え給ふ京へ人いたしたて給ふ二

条院部多天末川利給不止入道乃宮部止八可幾毛屋
条院へたてまつり給ふと入道の宮へとはかきもや

里多満八寸久良左礼多満部利宮尔八
りたまはすくらされたまへり宮には

【須磨】 55

松島也海士乃止満也毛以可奈良久寸満浦人
松島や海士のとまやもいかならんすま浦人

之本多留、比以川止侍良奴中耳毛幾之可多行
しほたる、比いつと侍らぬ中にもきしかた行

左幾加幾久良之美幾八末佐利天奈无内侍乃
さきかきくらしみきはまさりてなん内侍の

可三能御毛止尔連以能中納言能君乃王多久之
かみの御もとにれいの中納言の君のわたくし

己止乃屋宇耳天奈可奈留尔川連く止寸幾尔之可多
ことのやうにてなかなるにつれくとすきにしかた

能思日給部出良留、尔川計天
の思ひ給へ出らるゝにつけて

古利寸満能浦乃見留女能床之幾尔塩焼海士
こりすまの浦の見るめの床しきに塩焼海士

屋以可尔於毛八无左満く書川久之給不己止乃葉思
やいかにおもはんさまく書つくし給ふことの葉思

也留部之大殿尔毛宰相乃女乃止尔毛川可宇末川留部幾
やるへし大殿にも宰相のめのもにつかうまつるへき

【須磨】 56

事奈止書川可波春京尔波此文所く尔見給比天
事なと書つかはす京には此文所くに見給ひて

御心三多礼多満不人く乃三於本可利二条院乃君八
御心みたれたまふ人くのみおほかり二条院の君は

曾乃末、尔於幾毛阿可利多満八春川幾世怒左満尔
そのまゝにおきもあかりたまはすつきせぬさまに

於本之己可留連波左不良婦人く毛古之良部王比川、
おほしこかるればさふらふ人くもこしらへわひつゝ

心本曾宇思安部利毛天奈良之多満之御天宇止止毛
心ほそう思あへりもてならしたまし御てうとも

比幾奈良之給比之御琴怒幾寸天給部留御曾
ひきならし給ひし御琴ぬきすて給へる御そ

能勾比奈止耳川計天毛以万波止世尔奈可良天
の勾ひなとにつけてもいまはと世になからん

人能屋宇尔乃三於本之多連波可川八遊、志宇天
人のやうにのみおほしたればかつはゆゝうて

少納言八僧都尔御祈能己止奈止聞由不多可多尔
少納言は僧都に御祈のことなど聞ゆふたかに

【須磨】 57

美春法奈止世左勢多満不可川八加久於本之女之奈計久
みす法なとせさせたまふかつはかくおほしめしなけく

御心志川女多満比曾思奈幾世耳安良世多天末川利給部止
御心しつめたまひて思なき世にあらせたまつり給へと

心久留志幾末、尔祈申給不旅乃御止乃并物奈止
心くるしきまゝに祈申給ふ旅の御とのみ物なと

天宇之天多天末川利多満不可止利の御奈遠之左
てうしてたてまつりたまふかとの御なをしさ

志奴幾左満可八利多留心知寸留毛以三之起耳佐良奴
しぬきさまかはりたる心ちするもいみしきにさらぬ

鏡能止乃多満比之面影乃遣耳身尔曾比多満部留
鏡のとのたまひし面影のけに身にそひたまへる

毛可比奈之出以利多満比之方与利為多満比之末幾
もかひなし出いらたまひし方よりぬたまひしまき

柱奈止見多満不尔毛胸乃三不多可利天物遠止可宇
柱なと見たまふにも胸のみふたかりて物をとかう

思女久良之世尔志本志三奴留与者比乃人多尔安利
思めくらし世にしほしめぬるよはひの人たにあり

【須磨】 58

末之天奈礼無川比聞衣知、波、尔毛奈利天於本
ましてなれむつひ聞えち、は、にもなりておほ

之多天奈良八之給部連八己比之宇思聞衣給部留
したてならはし給へればこひしう思聞え給へる

己止王利也比多寸良世尔奈久奈利奈无八以者无可
ことわり也ひたすら世になくなりなんはいはんか

太奈久天屋宇く忘草毛遠比也春留良无幾久
たなくてやうく忘草もをひやすらんきく

程八知可介礼止以川末天止加幾利安留御別尔毛安良
程はちかけれといつまととかきりある御別にもあら

天止於本春尔川幾世春奈无入道能宫尔毛春宮
てとおほすにつきせすなん入道の宮にも春宮

能御己止尔与里於本之奈計久左満以止佐良也御
の御ことによりおほしなけくさまいとさら也御

寸久世能程遠於本春尔八以可、安左久八於本左礼无
すくせの程をおほすにはいか、あさくはおほさん

止之比八只物、聞衣奈止乃川、末之左尔寸己之
とし比は只物、聞えなどのつ、まじさにすこし

【須磨】 59

奈左計阿留遣之幾見世八其尔川計天人乃止
なさけあるけしき見せば其につけて人のと

加女毛津留己止毛己曾止能三比止部尔於本之忍比
かめもつることもこそとのみひとへにおほし忍ひ

津、哀遠毛於本宇御良无之春久之寸久く志宇毛天
つゝ哀をもおほう御らんしすくしすくしうもて

奈之給之遠可波可利尔宇幾世能人己止奈礼止可計
なし給しをかはかりにうき世の人ことなれとかけ

天毛此可多尔波以比出留事奈久天也三奴留八可利
ても此かたにはいひ出る事なくてやみぬるはかり

乃人能御於毛武計毛安奈可知奈利之心能比久
の人の御おもむけもあなかななりし心のひく

加多尔末可世春可川八女也春久毛天加久之津留
かたにまかせずかつはめやすくもてかくしつる

楚可之哀尔左比之宇毛己比之宇毛以可、於本
そかし哀にさひしうもこひしうもいか、おほ

之出佐良无御返之毛春己之己末也可尔天此比八以止、
し出さらん御返しもすこしこまやかにて此比はいと、

【須磨】 60

塩多留、己止遠焼耳天松島尔止之婦留海士
塩たるゝことを焼にて松島にとしふる海士

毛奈計幾遠曾川武可无能君乃御返事八
もなけきをそつむかんの君の御返事は

浦尔多久海士多、川、武恋奈礼八久由留煙与
浦にたく海士たゝつゝむ恋なればくゆる煙よ

行方曾奈幾佐良奈留己止止毛八盈奈止八可利以
行方そなきさらなることもはえなどはかりい

佐、可耳天中納言能君乃中尔阿利於本之奈計久
さ、かにて中納言の君の中におほしなけく

左滿奈止以三志宇以比多利哀止思幾古衣多滿不婦
さまなといみしいひたり哀と思きこえたまふふ

志不く毛安連八打奈可礼多滿比怒姫君能御文八心己
しふくもあれば打なかれたまひぬ姫君の御文は心こ

止尔己滿可也之御返奈礼八哀奈留己止於本久天
とにこまか也し御返なれば哀なることおほくて

浦人乃塩久武袖耳久良部見与浪知部多川留
浦人の塩くむ袖にくらへ見よ浪知へたつる

【須磨】 61

夜留能衣遠物、色之多満部留左満奈止以止幾与良也
夜るの衣を物、色したまへるさまなといときよら也

何事毛良宇く之宇物之多満不遠思不左満耳天今八
何事もらうくしう物したまふを思ふさまにて今は

己止耳く心安者多、志宇行可、津良婦方毛奈久
ことにく心あはた、しう行か、つらふ方もなく

志女也可耳天安留部幾物遠止於本春耳以三志宇久知
しめやかにてあるへき物をとおほすにいみしうくち

於志宇与留比留面影尔乃三於本衣天多衣可多宇思出
おしうよるひる面影にのみおほえてたえかたう思出

良礼多満部者猶忍比天也無可部末之止於本春又打
られたまへは猶忍ひてやむかへましとおほす又打

閑部之奈曾也可久宇幾世耳川三遠多尔宇之奈八无
かへしなそやかくうき世にみをたにうしなはん

止於本世八也可天御左宇志无耳天安計暮遠己奈比
とおほせはやかて御さうしんにてあけ暮をこなひ

天於者春大殿乃若君乃御己止奈止安留尔毛以止
ておほす大殿の若君の御ことなどあるにもいと

【須磨】 62

可那之介礼止遠能川可良安比見天无多能毛之幾
かなしけれどをのつからあひ見てんたのもしき

物之多満部者宇之呂女多宇八安良春止於本之奈左流、
物したまへはうしろめたうはあらすとおほしなざる、

八中く己能美知能未止者礼奴尔也安良无満己
は中くこのみちのまとはれぬにやあらんまこ

止也左八可之可礼之程乃末幾礼尔加幾毛良之
とやさはかしかりし程のまきれにかきもらし

天介利彼伊勢能宮部毛御川可比安利介利可礼与里
てけり彼伊勢の宮へも御つかひありけりかれより

毛婦利者部多川年末以礼利安左可良怒事止毛書
もふりはへたつねまいりあさからぬ事とも書

多満部利己止能葉筆川可比奈止八人与利己止尔奈女
たまへりことの葉筆つかひなとは人よりことになめ

免可之久以多利不可宇見衣多利猶宇川、止八思給部
めかしういたりふかう見えたり猶うつとは思給へ

良礼怒御寸満比遠宇計多満者留耳安毛怒夜能心未
られぬ御すまひをうけたまはるにあけぬ夜の心ま

【須磨】 63

止比可止奈无佐利止毛止之月乃遍多天給八之止
とひかとなんざりともとし月のへたて給はしと

思屋利聞衣左寸留尔毛川三不可幾身乃三己曾又幾
思やり聞えさするにもつみふかき身のみこそ又き

古衣左世无己止毛者留可奈留部介利
こえさせんこともはるかなるへけれ

宇幾女加留伊勢遠能海士遠思日屋連毛之本
うきめかる伊勢をの海士を思ひやれもしほ

多連天不寸満乃浦耳天与呂川尔思給部三多留、
たれてふすまの浦にてよろすに思給へみたる、

世能安利左満毛猶以可耳奈利者川部幾耳可止於本可利
世のありさまも猶いかになりはつへきにかとおほかり

伊勢島也塩干能可多尔阿左利天毛以不可比
伊勢島や塩干のかたにあさりてもいふかひ

奈幾波我身奈利介利物遠哀止於本之介留末、尔
なきは我身なりけり物を哀とおほしけるまゝに

打於幾く可幾給部留志呂幾可良能紙四五末以八可利
打おきくかき給へるしろきからの紙四五まいはかり

【須磨】 64

遠卷津、介天墨川幾奈止見所阿利哀尔思聞衣
を卷津、けて墨つきなと見所あり哀に思聞え

之人遠比止不之宇之止思幾古衣之心安也未利
し人をひとふしうしと思きこえし心あやまり

尔可能三也春所毛思宇武之天王可礼多満比尔之止
にかのみやす所も思うむしてわかれたまひにしと

於本世波以万尔以止遠之宇可多之計奈幾物尔
おほせはいまにいとをしうかたしけなき物に

思聞衣給不於利可良能御文以止哀奈礼八御川可比
思聞え給ふおりからの御文いと哀なれば御つかひ

左部武川末之久天二三日寸部左世給比天可之
さへむつましくて二三日すへさせ給ひてかし

己能物可多利奈止世左勢天幾古之女春王可也
この物かたりなとせさせてきこしめすわかや

可尔介之幾阿留左不良比乃人奈里介利可久哀奈留
かにけしきあるさふらひの人なりけりかく哀なる

御寸満為奈礼八可也宇能人毛遠乃川可良物止遠可良天
御すまぬなれはかやうの人もをのつから物とをからて

【須磨】65

本能见多末末川留御左満可多知遠以三之字女天多之止
ほの見たてまつる御さまかちをいみしうめてたしと

涙於登之遠利介利御可部利可幾給不言能葉思屋留部
涙おとしをりけり御かへりかき給ふ言の葉思やるへ

之加久世遠者奈留部幾身止思給へ末之可八於奈之久八
しかく世をはなるへき身と思給へましかはおなくは

志多比聞衣満之物遠奈止奈无川連く止心本曾幾末ゝ尔
したひ聞えまし物をなとなんつれくと心ほそきまゝに

伊勢人乃浪乃宇部己久小舟尔毛宇幾女八可良天
伊勢人の浪のうへこく小舟にもうきめはからて

能良満之物遠
のらまし物を

海土可川武奈計木能中尔塩多礼天以川末天寸満
海土かつむなけ木の中に塩たれていつまですま

能浦尔奈可女无聞衣左世己止乃以川止毛侍良怒己曾川幾
の浦になかめん聞えさせことのいつとも侍らぬこそつき

世怒心知之侍奈止曾阿利介留可也尔尔以川己尔毛於本
せぬ心ちし侍なとそありけるかやうにいつこにもおほ

【須磨】66

川可奈可良寸聞衣可八之多満不花知留里毛可那之止
つかなからす聞えかはしたまふ花ちる里もかなしと

於本之介留満ゝ尔可幾安川女多満部留御文止毛心く
おほしけるまゝにかきあつめたまへる御文とも心く

見給不八遠可之幾毛女奈礼怒心知之天以川連毛
見給ふはをかきもめなぬ心ちしていづれも

打見川ゝ奈久左女給部止物思目能毛与本之草奈女利
打見つゝなくさめ給へと物思ひのもよほし草なめり

荒万佐留軒乃忍不遠奈可女川ゝ志計久毛露乃
荒まさる軒の忍ふをなかめつゝしけくも露の

可ゝ留袖可奈止阿留遠計尔武久良与利外能宇之呂三毛
かゝる袖かなとあるをけにむくらより外のうしろみも

奈幾左満耳天遠八春良无止於本之屋利天奈可女給不
なきさまにてをはすらんとおほしやりてななめ給ふ

奈可雨耳川以比知毛所くく久川連天奈止幾ゝ給部八
なか雨についひちも所くくつれてなときゝ給へは

京能介比之乃毛止尔於本世川可八之天知可幾国
京のけひしのもとにおほせつかはしてちかき国

【須磨】 67

国乃見左字能物奈止毛与本左世天寸利奈止川可宇
国のみさうの物なともよほさせてすりなとつかう

末川留部幾与之能給者寸可无乃君八人王良部尔
まつるへきよしの給はすかんの君は人わらへに

以三之宇於本之久川於留、遠於止、以止可奈之宇志
いみしうおほしくつおるゝをおとゝいとかなしうし

給不君耳天世知尔宮丹毛内丹毛曾宇之給不介礼八
給ふ君にてせちに宮にも内にもそうし給ふければ

可幾利安留女御三也春所尔毛遠八世春於本也計左満乃
かきりある女御みやす所にもをはせずおほやけさまの

宮津可部止於本之奈遠利又可能丹久可利之由部己曾
宮つかへとおほしなをり又かのにくかりしゆへこそ

以可女之幾事毛以天古之可由留左礼給天末以利給不
いかめしき事もいてこしかゆるされ給てまいり給ふ

部幾耳川計天毛猶心尔志三尔之可多曾哀尔於本衣多満
へきにつけても猶心にしみにしかたそ哀におほえたま

比介留七月尔奈利天末以利給不以三之可利志御思ひ
ひける七月になりてまいり給ふいみしかりし御思ひ

【須磨】 68

乃奈已利奈礼八人乃曾之里毛志呂之女左礼春連以
のなこりなれは人のそしりもしろしめされすれい

乃宇部尔川止左不良者世給不与呂川尔宇良見可川八哀
のうへにつとさふらはせ給ふよろつにうらみかつは哀

尔知幾良勢給不御左満可多知毛以止奈万女可之宇
にちきらせ給ふ御さまかちもいとなまめかしう

幾与良奈礼止思出る事能三於本可留心乃宇知曾可多
きよらなれと思出る事のみおほかる心のうちそかた

志計奈幾御安曾比乃川比天尔其人乃奈幾己曾
しけなき御あそひのつひてに其人のなきこそ

以止左宇く之介礼以可耳満之天思不人於本可良无
いとさうくしけれいかまして思ふ人おほからん

何事毛曰可利奈幾古、知寸留可奈止能多満八世天
何事もひかりなきこゝちするかなどのたまはせて

院乃於本之能多満者世之御心遠多可部川留哉川三字
院のおほしのたまはせし御心をたかへつる哉つみう

羅武可之止天涙久満世給不尔盈称无之多満八寸世
らむかしとて涙くませ給ふにえねんしたまはず世

【須磨】 69

乃中己曾安留耳川計天毛安知幾奈幾物也介礼止思
の中こそあるにつけてもあちなき物也けれどと思

志留滿、尔久之久世尔安良无物止奈无佐良尔於毛者怒
しるまゝに久しく世にあらん物となんさらにおもはぬ

左毛奈利奈无尔以可、於本左留部幾知可幾程乃別尔
さもなりなんにいかゝおほさるへきちかき程の別に

思遠止左礼无己曾称多介礼以介留世尔与可良怒人
思をとされんこそねたけれいける世によからぬ人

能以比遠幾介无止以止奈川可之幾御左滿耳天物遠
のいひをきけんといとなつかしき御さまにて物を

未己止耳哀止於本之以利天能多滿八寸留尔川計天
まことに哀とおほしいりてのたまはするにつけて

本呂く止己本連以川連八左利也以川連尔出津留尔可止
ほろくとかほれいづればさりやいづれに出づるにかと

能多滿八春以来、天見己多知能奈幾己曾左字く之
のたまはすいまゝてみこたちのなきこそさうくし

介礼春宮遠院乃乃多滿者世之左滿尔思へ止与加良怒
けれ春宮を院のたまはせしさまに思へとよからぬ

【須磨】 70

事止毛出久女礼八心久留之宇奈止世遠御心乃外尔
事とも出くめれば心くるしうなと世を御心の外に

滿川利宇知奈之給人乃安留尔王可幾御心乃川与幾
まつりうちなし給人のあるにわかき御心のつよき

所奈幾程耳天以止遠之止於本之多留事毛於本
所なき程にていとをしとおほしたる事もおほ

可利寸滿尔波以止、心川久之乃秋風尔海八寸己之
かりすまにはいと、心つくしの秋風に海はすこし

止越介礼止行平中納言能閑吹己遊留止以比介无
とをけれど行平中納言の閑吹こゆるといひけん

浦波与留く八計尔以止知可久聞衣天又奈久哀
浦波よるくはけにいとちかく聞えて又なく哀

奈留物八閑、留所乃秋奈利計利御未部尔以止人
なる物はかゝる所の秋なりけり御まへにいと人

寸久奈耳天打也春三王多礼流耳日止利女遠左滿
すくなにて打やすみわたれるにひとりめをさま

之天枕遠曾者多天、与毛乃嵐遠幾、多滿不耳
して枕をそはたて、よもの嵐をき、たまふに

【須磨】 71

浪多ゝ己、毛止尔多知久留心知之天涙遠川止毛
浪たゝこゝもとにたちくる心ちして涙をつとも

於本衣奴耳枕宇久八可利尔奈利尔介利琴遠春己之
おほえぬに枕うくはかりになりけり琴をすこし

可幾奈良之給部流可我奈可良以止寸己字聞由連八
かきならし給へるか我なからいとすこう聞ゆれば

比幾佐之多満比天
ひきさしたまひて

恋王比天奈久称耳末可不浦波八思不可多与利
恋わひてなくねにまかふ浦波は思ふかたより

風也吹良无止宇多比給部留尔人く於止呂幾天安比奈宇
風や吹らんとうたひ給へるに人くおとろきてあひなう

於幾井川、者奈遠忍比也可尔可三王多寸計尔以可耳
おきぬつゝはなを忍ひやかにかみわたすけにいか

思不良无我身日止川尔与里於也者良可良可多時立
思ふらん我身ひとつによりおやはらからかた時立

者奈礼可多久程尔川計川、思不良无家知遠別天可久
はなれかたく程につけつゝ思ふらん家ちを別てかく

【須磨】 72

万止比安部留止於本春耳以三之久天以止可久思志
まとひあへるとおほすにいみしくていとかく思し

川武左満遠心本曾之止思者无止於本世八比留八奈尔
つむさまを心ほそしと思はんとおほせはひるはなに

久礼止多者婦連己止打能多満比末幾良八之川礼く
くれとたはふれこと打のたままきはしつれく

奈留満、尔色く能加三遠川幾川良称奈良比遠之
なるまゝに色くのかみをつきつらねならひをし

多満比女川良之幾左満奈留加良能安也奈止尔左満く乃
たまひめつらしきさまなるからのあやなどにさまくの

絵止毛遠可幾寸左比多満部留屏風乃於毛天止毛
絵ともをかきさすいたまへる屏風のおもてもと

奈止以止女天多久見所安利人く乃可多利聞衣之
なといとめてたく見所あり人くのかたり聞えし

海山能安利左満者留可尔思也利之遠御女尔知可久
海山のありさまはるかに思やりしを御めにちかく

天八計尔遠与者怒以曾乃当、寸満為加幾利奈久
てはけにおよはぬいそのたゝすまあかりなく

【須磨】 73

可幾安川女多満部利此比乃三春尔寸女留千枝川祢乃利
かきあつめたまへり此比のみすにすめる千枝つねのり

奈止遠女之天川久利絵川可宇末川良世者也止心毛止
などをめしてつくり絵つかうまつらせはやと心もと

奈可利安部利奈川可之宇女天多幾御左満耳与乃物思
なかりあへりなつかしうめてたき御さまによの物思

忘天知可宇奈礼川可宇末川留遠嬢之幾己止丹天
忘れてちかなれつかうまつるを嬉しきことにて

四五人八可利曾川止左不良比計留世无左以乃花色
四五人はかりそつとさふらひけるせんさいの花色

色咲三多礼天於毛之呂幾夕久礼尔海見屋良
色咲みたれておもしろき夕くれに海見やら

流、良宇尔出給天多、寸見多満不御左満遊、志宇
るゝらうに出給てたゝすみたまふ御さまゆゝしう

幾与良奈留己止所可良八末之天此世能物止見衣
きよらなること所からはまして此世の物と見え

多満者寸志呂幾安也乃奈与良可奈留志本武色奈止
たまはすしろきあやのなよらかなるしほむ色など

【須磨】 74

多天末川利天己満屋可奈留御奈越之遠比之止計奈久
たてまつりてこまやかなる御なをしをひしとけなく

打三多連多満部留御左満耳天釈迦牟尼仏の御
打みたれたまへる御さまにて釈迦牟尼仏の御

弟子止奈能利天遊留、可尔与見多満部留末多世耳
弟子となのりてゆるゝかによみたまへるまた世に

志良春幾己遊於幾与里舟止毛能宇多比能、志利天
しらすきこゆおきより舟とものうたひのゝしりて

漕行奈止毛聞由本乃可耳多、知以左幾鳥能宇可部
漕行なども聞ゆほのかにたゝちいさき鳥のうかへ

流止見也良流、毛心本曾計尔可利能津良祢天奈久
ると見やらるゝも心ほそけにかりのつらねてなく

己恵可知能遠止尔末可部留遠打奈可女給天涙乃
こゑかちのをとにまかへるを打なめ給て涙の

己本留、遠可幾者良比多満部留御手川幾久呂幾
こほるゝをかきはらひたまへる御手つきくろき

乃御寸、尔者部多満部留八不留里能女恋之幾人ゝ乃
の御すゝにはへたまへるはふる里の女恋しき人ゝの

【須磨】 75

心美那奈久左三介利
心みななくさみにけり

者川雁八恋之幾人乃川良奈礼也旅乃空
はつ雁は恋しき人のつらなれや旅の空

止不己惠能可那之幾止能給部八与之幾与
とふこゑのかなしきとの給へはよしきよ

可幾津良祢無可之能已止楚於毛本遊留雁八
かきつらねむかしのことそおもほゆる雁は

曾能夜乃友奈良祢止毛民部大輔
その夜の友ならねとも民部大輔

心可良床遠寸天、奈久雁遠雲能与曾丹毛
心から床をすてゝなく雁を雲のよそにも

思日計留可奈左幾能右近乃曾宇
思ひけるかなさきの右近のそう

床世出天旅乃空奈留雁可年毛川良尔遠久礼怒
床世出て旅の空なる雁かねもつらにをくれぬ

程曾奈久左武友末止八之天八以可尔侍良満之止以不八
程そなくさむ友まとはしてはいかに侍らましといふは

【須磨】 76

於也能比多知尔奈利天久多利志尔毛左曾者礼天末以連留
おやのひたちになりてくたりしにもさそはれてまいれる

也介利志多尔八思久多久部可女礼止本己利可尔毛天奈
也けりしたには思くたくへかめれとほりかにもてな

之天川連奈幾左満尔志安利久月以止者奈也可尔
してつれなきさまにしありく月いとはなやかに

佐之出多留尔今夜八十五夜乃程也介利止於本之
さし出たるに今夜は十五夜の程也けりとおほし

出天殿上農御安曾比恋之久所く奈可女給不良无可之
出て殿上の御あそひ恋しく所くなかめ給ふらんかし

止思也利多満不耳川計天毛月乃可本乃三末毛良連多
と思やりたまふにつけても月のかほのみまもられた

末不三千里外古人心止寸之多満部留例の涙毛
まふ三千里外古人心とすしたまへる例の涙も

止、女良礼春入道乃宮乃霧也遍多川留止能多
とゝめられす入道の宮の霧やへたつるとのた

満八世之程以者无可多奈久恋しく於利く乃己止
まはせし程いはんかたなく恋しくおりくのこと

【須磨】 77

思出多満不尔与、止奈可礼給不夜不計侍奴止聞由
思出たまふによゝとなかれ給ふ夜ふけ侍ぬと聞ゆ

連止奈遠以利多満者寸
れとなをいりたまはず

見留程曾志八之奈久左無女久利安八无月乃都
見る程そしはしなくさむめぐりあはん月の都

盤者留可奈礼止毛其夜宇部乃以止奈川可之宇昔之
ははるかなれとも其夜うへのいとなつかしう昔し

物語奈止之給之御左満能院尔、多天末川利給部里之毛
物語なとし給し御さまの院にゝたてまつり給へりしも

恩賜乃御衣八今古、尔安利止寸之多満比川、入多満比
恩賜の御衣は今こゝにありとすしたまひつゝ、入たまひ

怒涙尔御曾八身者奈多寸可多八良尔於幾多末部利
ぬ涙に御そは身はなたすかたはらにおきたまへり

宇之止能三一盈尔物八於毛本衣天左利右幾尔毛
うしとのみ一えに物はおもほえて左り右きにも

奴留、袖可奈其比大式八能本利介留以可女可之久流比
ぬるゝ袖かな其比大式はのほりけるいかめかしくるひ

【須磨】 78

日呂久武寸女可知耳天所世可利介礼八北方八母尔
ひろくむすめかちにて所せかりければ北方は舟に

天能本留宇良川多比尔世宇与宇志川、久留耳本可与利毛
てのほるうらつたひにせうようしつゝくるにほかよりも

於毛之呂支和多利奈礼八止満耳大将閑久天遠
おもしろきわたりなれば心とまに大將かくてを

波春止幾計八安比奈宇寸比多留王可幾武春女多
はすときけはあひなうすひたるわかきむすめた

知八舟乃内左部者川可之宇心計左宇世良流末之天
ちは舟の内さへはつかしう心けさうせらるまして

五世川乃君八川奈天引寸久留毛久知於之幾尔琴
五せつの君はつなて引するもくちおしきに琴

能己惠風尔川幾天者留可尔聞由留尔所能左満人乃御
のこゑ風につきてはるかに聞ゆるに所のさま人の御

程物能音乃本曾左止利安川女心安留可幾利皆奈
程物の音の心ほそさととりあつめ心あるかきり皆な

幾尔介利曾知御世宇曾己聞衣多利以止波留可奈留程
きにけりそち御せうそこ聞えたりいとはるかなる程

【須磨】 79

与里末可利能本利天八末川以川之可止久末以利左不良比
よりまかりのほりてはまついつしかとくまいりさふらひ

天都能御物語毛止己曾思多満部侍川連思乃程尔可久
て都の御物語もところ思たまへ侍つれ思の程にかく

天遠八之満之介留御寸見家遠末可利過侍留閑多
てをはしましける御すみ家をまかり過侍るかた

志計奈宇可那之宇毛侍可奈安比志利天侍人く左留部幾
しけなうかなしうも侍かなあひしりて侍人くさるへき

己礼可礼末宇天幾武可比天安末多侍良八所世左遠
これかれまうてきむかひてあまた侍らは所せさを

思多満部者、可利侍事止毛者部利天惠左不良八奴事
思たまへは、かり侍事ともはへりてゑさふらはぬ事

佐良尔万比利侍良无奈止己能筑前守曾末以礼留此止
さらにまひり侍らなとこの筑前守そまいる此と

能、蔵人尔奈之天婦利見多満比之人奈礼八以止毛可奈
の、蔵人になして歸り見たまひし人なれはいともかな

之以三之止思部止毛又見留人く能安礼八聞衣遠思日天
しいみしと思へとも又見る人くのあれば聞えを思ひて

【須磨】 80

志八之毛惠多知止満良春都者奈連天後昔之志多
しはしもゑたちとまらず都はなれて後昔しした

之可利之人く安比三留事可多宇乃三奈利尔多留尔可
しかりし人くあひみる事かたうのみなりにたるにか

久王左止多知与里物之堂留事止能多満不御返毛
くわさとたちより物したる事とのたまふ御返も

左也尔奈无可三奈久く歸利天遠八春留御安利左満可多留尔
さやうになんかみなくく歸りてをはする御ありさまかたるに

曾知与里波之女向部能人く末可く之宇奈幾見知
そちよりはしめ向への人くまかくしうなきみち

多利五世知八止可久之天幾古衣多利
たり五せちはとかくしてきこえたり

琴能音尔比幾止女良流、繩天奈者多由多不心
琴の音にひきとめらるゝ繩てなはたゆたふ心

君志留良女也寸幾く志左毛人奈止可女曾止聞衣多利
君しるらめやすきくしさも人なとかめそと聞えたり

本、惠三天見多満不以止者川可之計奈利
ほゝゑみて見たまふいとはつかしけなり

【須磨】 81

心阿利天引天乃川奈能多由太八、打過滿之也須
心ありて引てのつなのたゆたは、打過ましや須

滿乃浦波以左利世无止八於毛八左利之者也止安利武末也
まの浦波いさりせんとはおもはさりしはやとありむまや

能遠左尔久之止良寸留人毛阿利介留遠滿之天
のをさにくしとらする人もありけるをまして

於知止末利奴部久奈无於本衣介留都尔八月日寸久留
おちとまりぬへくなんおほえける都には月日する

滿、尔御門遠波之女多天末川利天恋幾已由留折節
まゝに御門をはしめたてまつりて恋きこゆる折節

於本可利春宮八滿之天川年尔於本之出津、忍天奈幾
おほかり春宮はましてつねにおほし出つゝ、忍てなき

多滿不遠見多天末川留御女能止滿之天命婦能君八以三
たまふを見たてまつる御めのとまして命婦の君はいみ

志宇哀尔見多天末川留入道宮八春宮乃御已止遠遊、
しう哀に見たてまつる入道宮は春宮の御ことをゆゝ

志宇乃三於本之、尔大将毛可久左寸良部多滿比奴留遠以三
しうのみおほしゝに大将もかくさすらへたまひぬるをいみ

【須磨】 82

志宇於本之奈計可留御八良可良能見己多知武川万
しうおほしなける御はらからのみこちむつま

志宇聞衣多滿比之上達部奈止波之女川可多八止不
しう聞えたまひし上達部などはしめつかたはとふ

良比聞衣給奈止安利幾哀奈留文遠川久利可波之
らひ聞え給なとありき哀なる文をつくりかはし

其尔川計天毛世能中尔乃三女天良礼給部八幾左
其につけても世の中にのみめてられ給へはきさ

比能宮幾古之女之天以三之字能給比介利於本也計
ひの宮きこしめしていみしうの給ひけりおほやけ

能可宇之奈留人八心尔末可世天此世能安知者比遠
のかうしなる人は心にまかせて此世のあちはひを

太尔志留已止可多宇己曾安奈礼面白家為遠之天世能
たにすることかたうこそあなれ面白家をして世の

中遠遊之里毛止幾天彼鹿遠佐之天馬止
中をそしりもときて彼鹿をさして馬と

以比介无人乃比可女留屋宇尔川比世宇寸留奈止阿之幾已止
いひけん人のひかめるやうにつひせうするなどあしきこと

【須磨】 83

止毛聞衣介礼八王川良八之久天多衣天世宇曾已聞衣
とも聞えければわつらはしくてたえてせうそこ聞え

給不人奈之二条院乃姫君八程不留満、尔於本之奈久左
給ふ人なし二条院の姫君は程ふるまゝにおほしなくさ

武於利奈之曰无可之能多比尔左不良比之人く毛皆王多
むおりなしひんかしのたひにさふらひし人くも皆わた

里万以利丹之波之女八奈止可佐之毛安良无止思之可止見
りまいりにしはしめはなとかさしもあらんと思しかと見

多天万津利奈留、満、尔奈川可之宇遠可之幾御安利左満
たてまつりなるゝまゝになつかしうをかしき御ありさま

末女屋可奈留御心者部毛思屋利不可宇哀奈礼八末可天知
まめやかなる御心はへも思やりふかう哀なれはまかてち

留毛奈之奈部天奈良怒幾波乃人く耳波本能見衣奈
るもなしなへてならぬきはの人くにはほの見えな

止志多満不曾己良能中尔寸久礼多留御心佐之毛己止
としたまふそこの中にすくれたる御心さしものと

波利奈利介礼止見多天末川留彼山里尔八恋之幾満、尔
はりなりけれど見たてまつる彼山里には恋しきまゝに

【須磨】 84

盈祢无之寸久春満志宇於本衣給部止我身多尔
えねんしすくすましうおほえ給へと我身たに

浅間之幾寸久勢止於本遊留寸満為尔以可天可打
浅ましきすくせとおほゆるすまゐにいかてか打

久之天八川幾那可良无左満遠思可部之給不所尔川
くしてはつきなからんさまを思かへし給ふ所につ

計天与呂川乃事左満可八利見多満部志良奴志毛人
けてよろつの事さまかはり見たまへしらぬしも人

能宇部遠毛見多満比奈良八怒御心知尔女左満志宇
のうへをも見たまひならはぬ御心にめさましう

閑多志計奈宇身川可良於本左留煙乃以止知可久
かたしけなうみつからおほさる煙のいとちかく

時く立久留遠己礼也海士能塩焼奈良无止於本之
時く立くるをこれや海士の塩焼ならんとおほし

王多留八遠八之末須宇之路乃山尔柴止以不物不
わたるをはしますうしろの山に柴といふ物ふ

寸不留也計利女川良可丹天
すふる也けりめつらかにて

【須磨】 85

山可川乃庵尔多介留志者く毛己止止比己奈无己不留
山かつの庵にたけるしはくもこととひこなんこふる

里人冬尔奈利天雪不利安礼多留比空乃気色毛
里人冬になりて雪ふりあれたる比空の気色も

己止尔寸古久奈可免給天琴遠引寸左比給天
ことにすこくなかめ給て琴を引すさひ給て

与之清尔歌宇多者世大輔与己笛吹天安曾比給
よし清に歌うたはせ大輔よこ笛吹てあそひ給

心止（止）女天哀奈留天奈止引多満部留尔己止物乃己恵
心と（と）めて哀なるてなと引たまへるにこと物のこ系

止毛八也女天涙遠能己比安部利昔之胡国尔川可者
ともはやめて涙をのこひあへり昔し胡国につかは

之介无女遠於本之屋利天満之天以可奈利介无止
しけん女をおほしやりてましていかなりけんと

此世耳我思聞由留人奈止遠左也宇尔者奈知也利多
此世に我思聞ゆる人なとをさやうにはなちやりた

良无己止奈止思不毛安良无己止能也宇仁思不毛由志宇天
らんことなと思ふもあらんことのやうに思ふもゆしうて

【須磨】 86

霜乃後能夢止寸之多満不月以止安可不指入天
霜の後の夢とすしたまふ月いとあかふ指入て

者可奈幾旅乃於満之所八於久末天久満奈之遊可
はかなき旅のおまし所はおくまてくまなしゆか

能宇部尔夜不可幾空毛見由入可多乃月影春己久
のうへに夜ふかき空も見ゆ入かたの月影すこく

見遊留尔太く己礼丹之尔行奈利止日止里己知給天
見ゆるにたこれにしに行なりとひとりこち給て

以川可多能雲路尔我毛末与比奈无月乃見留
いつかたの雲路に我もまよひなん月の見く

良无事毛者川可之止日止梨己知給天例乃
らん事もはつかしひとりこち給て例の

末止呂末礼奴曉乃空尔千鳥以止哀尔奈久
まとろまれぬ曉の空に千鳥いと哀になく

友千鳥毛呂声尔鳴曉八日止梨称覚乃
友千鳥もろ声に鳴曉はひとりね覚の

床毛田能毛之又於幾多留人毛奈介礼八返く日止利
床もたのもし又おきたる人もなければ返くひとり

【須磨】 87

已知天婦之多満部利夜不可久御天宇川末以利念春
こちてふしたまへり夜ふかく御てうつまいり念す

奈止之多満不毛女川良之幾事能屋宇尔女天多宇
なとしたまふもめつらしき事のやうにめてたう

乃三於本衣多満部八盈見多天末川利寸天春家尔安可良
のみおほえたまへはえ見たてまつりすてす家にあから

左満丹毛盈出左利介利明石乃浦八多、者比和多留程奈
さまにもえ出さりけり明石の浦はた、はひわたる程な

連波与之清乃朝臣可能入道乃武春女遠思出天文
れはよし清の朝臣かの入道のむすめを思出て文

奈止也利介礼止閑部利事毛世春知、能入道曾聞由
なとやりけれとかへり事もせずち、の入道ぞ聞ゆ

部幾己止奈无安可良左満尔对面毛可奈止以比介礼登
へきことなんあからさまに对面もかなといひけれと

宇計比可佐良无物由部行可、里天無那之久可部
うけひかさらん物ゆへ行かゝりてむなしくかへ

良无宇之呂天毛遠己奈留部之止久武之以多宇天
らんうしろてもをこなるへしとくむしいたうて

【須磨】 88

以可寸与尔志良春心多可久思部留尔国乃内八加三
いかすよにしらす心たかく思へるに国の内はかみ

能由可利乃三己曾八加之古幾事尔寸女礼止比可
のゆかりのみこそはかしき事にすめれとひか

比可女留心八佐良尔佐毛於毛者天止之月遠遍尔計
ひかめる心はさらにさもおもはてとし月をへにけ

留尔此君可久天遠八寸止幾、天者、君尔可多良婦
るに此君かくてをはずとき、ては、君にかたらふ

屋宇幾利靈乃更衣能御八良能源氏能日可留君己
やうきり靈の更衣の御はらの源氏のひかる君こ

曾大屋計能御可之己末利耳天須摩能浦尔物之多
そ大やけの御かしこまりにて須摩の浦に物した

末不奈礼安己能御寸久世耳天於本衣怒事農安留也
まふなれあこの御すくせにておほえぬ事のある也

以可天可、留川以天尔此君尔多天末川良无止以不
いかてかゝるついてに此君にたてまつらんといふ

者、安奈可多八也京能人乃可多留遠幾計八也武己止
は、あなかたはや京の人のかたるをきけはやむこと

【須磨】 89

奈幾御女止毛以止於本久毛知給比天其阿末利忍
なき御めともいとおほくもち給ひて其あまり忍

比忍比尔御門乃御女（遠）左部安也末知多満比天可久毛
ひ忍ひに御門の御め（を）さへあやまちたまひてかくも

左波可礼給奈留人八末左尔可久安也之幾山可
さはかれ給なる人はまさにかくあやしき山か

津遠心止、女給天无屋止以不八良多知天盈志利
つを心と、め給てんやといふはらちてえしり

多満八之思ふ心己止也左留心遠之給部川以天之天
たまはし思ふ心こと也さる心をし給へついでして

己、尔毛遠八之末左世无止心遠也利天以不毛可多久
こゝにもをはしまさんと心をやりていふもかた

奈之具見由末波由幾万之天志川良比可之川幾
なしく見ゆまはゆきましてしつらひかしつき

介利者、毛奈止可女天多久止毛物、波之女尔川三
けりはゝもなとかめてたぐとも物ゝはしめにつみ

尔安多利天奈可左礼天遠八之多良无人遠之毛
にあたりてなかされてをはしたらん人をしも

【須磨】 90

思可計无左天毛心遠止、女多満不部久八己曾安良女
思かけんさても心をと、めたまふへくはこそあらめ

多者婦連耳天毛安留満之幾己止也止以不遠以止
たはふれにてもあるまじきこと也といふをいと

以多久川不屋久川三尔安多留己止八毛呂己之丹毛
いたくつふやくつみにあたることはよろこしにも

我御門尔毛加久世耳寸礼何事尔毛尔己止
我御門にもかく世にすくれ何事にも人にこと

尔奈里怒留人乃可奈良須阿留事也以可尔物之
になりぬる人のかならずある事也いかに物し

多満不君曾己者、宮春所八遠能可遠知尔物
たまふ君そこは、宮す所はをのかをちに物

之多満比之安世知能大納言乃御武春女也以止
したまひしあせちの大納言の御むすめ也いと

可宇左久奈留名遠止利天宮川可比尔以多之多利
かうさくなる名をとりて宮つかひにいたしたり

志尔国王春苦礼天止幾女可之給己止奈良比
しに国王すくれてときめかし給ことならひ

【須磨】 91

奈可利系留程耳人乃曾年三於本久天宇世多滿比
なかりける程に人のそねみおほくてうせたまひ

丹之可止此君乃止滿利給部留以止女天多加之
にしかと此君のとまり給へるいとめてたし

女八心多可久川可不部幾物也遠能運可、留為中人
女は心たかくつかふへき物也をのれかゝるゐ中人

奈利止天於本之春天之奈止以比以多利此武春女
なりとておほしすてしなといひいたり此むすめ

春久礼堂留加多知奈良祢止奈川可之宇安天者可尔
すくれたるかたちならねとなつかしうあてはかに

心者世安留左滿奈止曾計尔也武己止奈幾人尔遠
心はせあるさまなとそけにやむことなき人にを

止留滿之可利計留身乃阿利左滿遠久知於之幾
とるましかりける身のありさまをくちおしき

物尔思志利天多可幾人八我遠奈丹能數尔毛於
物に思しりてたかき人は我をなにの数にもお

本左之程くゝ尔川計多留世遠八佐良尔見之以能知
ほさし程くゝにつけたる世をはさらに見しいのち

【須磨】 92

奈可久天思不人くゝ尔遠久礼奈八安万尔毛奈利奈无
なかくて思ふ人くゝにをくれなはあまにもなりなん

海乃曾己尔毛入奈无奈止曾思介留知、君所世久
海のそこにも人なんなどと思けるち、君所せく

思可之川幾天止之尔不多、比住吉尔末不天左
思かしつきてとしにふたゝひ住吉にまふてさ

勢介利神乃御志留之遠曾人志連須多乃三思
せけり神の御しるしをそ人しれすたのみ思

計留寸滿尔八止之閑部利天日奈可久川連くゝ奈留尔
けるすまにはとしかへりて日なかくつれくゝなるに

宇部之若木能板本能可尔咲曾女天空乃氣色
うへし若木の板ほのかに咲そめて空の氣色

宇良良可奈留尔与呂川乃事於本之出良礼天打
うららかなるによろつの事おほし出られて打

奈幾多滿不於利於本可利三月廿日安未利以尔之
なきたまふおりおほかり三月廿日あまりいにし

止之京遠王可礼之時心久留之可利之入くゝ乃
とし京をわかれし時心くるしかりし人くゝの

【須磨】 93

御安利左満奈止以止恋之久南殿乃桜乃桜乃可利尔也
御ありさまなといと恋しく南殿の桜はさかりに也

奴良无日止止勢乃花能盈无尔院乃御気色
ぬらんひととせの花のえんに院の御気色

宇知能宇部乃以止幾与良仁奈末女比天王可川久
うちのうへのいときよらになまめひてわかつく

礼留久遠寸之多満比之毛思出聞衣多満不
れるくをすしたまひしも思出聞えたまふ

以津止奈久大宮人乃恋之支尔桜可左之、
いつとなく大宮人の恋しきに桜かさし、

介不毛来耳介利以止川連く奈留尔大殿乃三位乃
けふも来にけりいとつれくなるに大殿の三位の

中将八以万八宰相尔奈利天人可良能以止与
中将はいまは宰相になりて人からのいとは

介礼八時世於本衣於毛久天物之多満部止世能中
ければ時世おほえおもくて物したまへと世の中

哀尔安知幾奈久物、於利已止尔恋之久於本衣
哀にあちきなく物、おりことに恋しくおほえ

【須磨】 94

多満部八已止乃聞衣阿利天川三尔安多留止毛以可、八世无
たまへはこの聞えありてつみにあたるともいか、はせん

止於本之奈之天丹波可尔末宇天多満不打見留
とおほしなしてにはかにまうてたまふ打見る

与里女川良之宇宇連之支尔毛日止川源曾已本
よりめつらしうれしきにもひとつ涙そこほ

連介留寸満為多満部留左満以者无閑多奈久加良
れけるすまぬたまへるさまいはんかたなくから

女比多留所乃左満絵尔可幾多良无屋宇奈留尔
めひたる所のさま絵にかきたらんやうなるに

竹乃安女留可幾志王多之天石乃橋松農柱
竹のあめるかきしわたして石の橋松の柱

遠呂曾可奈留物可良女川良可尔遠可之山可川女
をろそかなる物からめつらかにをかし山かつめ

幾天遊留之色乃幾可知奈留尔安遠尔比乃
きてゆるし色のきかちなるにあをにひの

可利衣佐之奴幾打屋川連天已止佐良尔為
かり衣さしぬき打やつれてことさらにあ

【須磨】 95

中比毛天奈之給部留志毛以三之字見留尔惠末礼
中ひもてなし給へるしもいみしう見るにゑまれ

天幾与良也止利川可比給部留天宇止毛可利曾女尔
てきよら也とりつかひ給へるてもかりそめに

志奈之天遠満之所毛安良ハル見以礼良留暮
しなしてをまし所もあらはに見いれる暮

寸久六乃者无天宇止多起乃具奈止為中王左
すく六のはんてうとたきの具なとぬ中わさ

尔志那之天称无寿能具遠己奈比津止女多満不
にしなしてねんすの具をこなひつとめたまふ

介利止見衣太利物末以連留奈止己止佐良所尔川
けりと見えたり物まいれるなどことさら所につ

計計宇安利天志那之多利海士止毛安左里之天
けけうありてしなしたり海士ともあさりして

可比津物毛天万以礼留遠女之出天御良无春浦
かひつ物もてまいれるをめし出て御らんす浦

耳止之婦留左満奈止止者勢多満不耳左満く屋春
にとしふるさまなとはせたまふにさまくやす

【須磨】 96

計奈起身能宇連部遠申曾己者可止奈久佐衣川留
けなき身のうれへを申そこはかとなくさえつる

毛心乃行衛八於奈之己止奈留尔己止奈利止哀尔
も心の行ゑはおなしことなるにことなりと哀に

見多満不御曾止毛奈止可川計左世多満不遠以
見たまふ御そともなとかつけさせたまふをい

計留可比安利止於毛部利御馬止毛知可不多天、
けるかひありとおもへり御馬ともちかふたて、

見屋利奈留久良未知可奈尔曾奈留以称奈止以不
見やりなるくらまかなにそなるいねなといふ

物止利以天、加宇奈止女川良之宇見多満不飛鳥
物とりいて、かうなとめつらしう見たまふ飛鳥

井春古之宇多比天月比乃御物語奈幾三
井すこしうたひて月比の御物語なきみ

王良比三吾君乃奈尔止毛世遠於本左天物之
わらひみ吾君のなにとも世をおぼて物し

多満不可那之左遠於止、能安計暮尔川計天於
たまふかなしさをとおと、のあけ暮につけてお

【須磨】 97

本之奈計久奈止加多利多満不尔多部可多久於本
ほしなけくなとかたりたまふにたへかたくおほ

之多利川幾春部久毛阿良祢八中く可多八之
したりつきますへくもあらねは中くかたはし

毛盈末祢者寸夜毛春可良未止路万須文津
もえまねはす夜もすからまとろます文つ

久利阿可之多満不左以比奈可良毛物乃聞衣遠川
くりあかしたまふさいひなからも物の聞えをつ

津三天以曾幾歸利給不以止中く也御可八良計末
つみていそき歸り給ふいと中く也御かはらけま

以利天恵比乃可那之三尔涙曾、久春能盃乃
いりてゑひのかなしみに涙そく春の盃の

内止毛呂声尔寸之多満不御止毛能人裳
内ともろ声にすしたまふ御ともの人も

涙遠奈可春遠乃可志、者川可王可礼於之武部可
涙をなかすをのかし、はつかわかれおしむへか

免利朝本良計乃空尔可利能川連天和多留阿
めり朝ほらけの空にかりのつれてわたるあ

【須磨】 98

流之乃君
るしの君

古郷遠以川連乃春可行天三无宇良山之幾八
古郷をいつれの春か行てみんうら山しきは

閑部留可利金宰相佐良尔立出无心知世天
かへるかり金宰相さらに立出ん心ちせて

安可奈尔雁乃床世遠多知別花乃都尔
あかなくに雁の床世をたち別花の都に

道也万止者无佐留部幾都乃川止奈止与之
道やまとはんさるへき都のつとなどよし

阿留左満耳天阿利安留之能君加久可多志計奈
あるさまにてありあるしの君かくかたしけな

幾御遠久利尔止天久呂己万多天末川利多満不
き御をくりにとてくろこまたてまつりたまふ

遊、志宇於本左礼怒部介礼止毛風尔安多利天八以者
ゆ、しうおほされぬへけれども風にあたりてはいは

盈怒部介礼八奈止申給不世尔安利可多計奈留
えぬへければなと申給ふ世にありかたけなる

【須磨】 99

御馬能左滿也閑多見尔忍比多滿部止天以三之幾笛
御馬のさま也かた見に忍ひたまへとていみしき笛

乃名阿利介留奈止者可利曾人止可免川部幾事八
の名ありけるなどはかりそ人とかめつへき事は

閑多三尔盈之多滿八寸日屋宇く佐之安可利天
かたみにえしたまはす日やうくさしあかりて

心安者多、之介礼八婦利見乃三志川、出多滿不遠見
心あはたしければ婦り見のみしつ、出たまふを見

遠久利多滿不氣色以止中く也以川又対面多滿
をくりたまふ氣色いと中く也いつ又対面たま

八良无止寸良无佐利止毛加久天也八止申多滿不
はらんとすらんさりとともかくてやはと申たまふ

阿留之
あるし

雲知可久飛可不多川毛空尔見与我八春
雲ちかく飛かふたつも空に見よ我は春

日能久毛利奈起身曾可川八多乃末礼奈可良加久
日のくもりなき身そかつはたのまれなからかく

【須磨】 100

奈利奴留人八昔之能可之己幾人多耳者可く
なりぬる人は昔しのかしこき人たにはかく

志宇世尔又滿之良宇己止加多久侍介礼八奈尔可
しう世に又ましらうことかたく侍ければなにか

都乃左可比遠又見无止奈无思者部良怒奈止
都のさかひを又見んとなん思はへらぬなど

乃多滿不幸相
のたまふ宰相

多川可奈幾雲為尔日止梨音遠曾奈久
たつかなき雲ぬにひとりねをそなく

津者左奈良部之友遠己比川、可多志計奈久奈礼
つはさならへし友をこひつ、かたしけなくなれ

聞衣侍天以止志毛止久也之宇思多滿部良留、
聞え侍ていとしもとくやしう思たまへらる、

於利於本久奈无止志女屋可尔毛安良天閑部利多滿比
おりおほくなんとしめやかにあらてかへりたまひ

怒留奈己利以止、可那之宇奈可免久良之給不
ぬるなこりいと、かなしうなかめくらし給ふ

【須磨】
101

屋与比川以多知尔出来多留三能日介不奈无加久
やよひついたちに出来たるみの日けふなんかく

於本春事阿留人八見曾幾志多満不部幾止奈万
おほす事ある人はみそきしたまふへきとなま

左可志幾人乃幾已遊連八海川良毛遊可之宇天
さかしき人のきこゆれば海つらもゆかしうて

以天多満不以止遠路曾可尔世志也宇八可利遠比幾女
いてたまふいとをろそかにせしやうばかりをひきめ

久良之天此国尔加与比介留陰陽師女之天者良
くらして此国にかよひける陰陽師めしてはら

部遠左世多満不尔己止く志幾人可多能世天
へをさせたまふ舟にことくしき人かたのせて

奈可寸遠見多満不尔毛世曾部良礼天
なかすを見たまふにもよそへられて

志良佐利之大海乃八良尔奈可礼来天日止可多
しらすりし大海のはらになかれ来てひとかた

尔也八物八可那之支止天為給部留御左満左留者礼尔
にやは物はかなしきとてみ給へる御さまさるはれに

【須磨】
102

出天以不与之奈久見衣給不海乃於毛天宇良く止
出ていふよしなく見え給ふ海のおもてうらくと

奈幾和多利天行衛毛志良奴尔古之可多行
なきわたりて行えもしらぬにこしかた行

佐幾於本之川、計良礼天
さきおほしつゝけられて

也遠与呂川神毛哀止思不良无遠可世留
やをよろつ神も哀と思ふらんをかける

川三能曾礼止奈介礼八止乃多満不尔丹波可尔風吹
つみのそれとなければとのたまふにはかに風吹

出天空毛可幾久礼怒御者良部毛志者天春多知
出て空もかきくれぬ御はらへもしはてすたち

左八幾多利比知可左雨止可不利幾天以止安者
さはきたりひちかさ雨とかふりきていとあは

多、之介礼八皆可部利多満八无止寸留尔可左止利
たゝしければ皆かへりたまはんとするにかさと

安部春佐留心毛奈幾尔与呂川吹知良之又
あへすさる心もなきによろつ吹ちらし又

【須磨】 103

奈幾風奈利波以止以可女之宇多知幾八幾天
なき風なり波いといかめしうたちきはきて

人〃能安之遠空也海乃於毛天八婦春滿遠者利
人〃のあしを空也海のおもてはふすまをはり

多良无也宇尔日可梨美知天神奈利比良女幾
たらんやうにひかりみちて神なりひらめき

於知可、留心知之天加良宇之天多止利来天
おちかゝる心ちしてからうしてたとり来て

可、留女遠見春毛阿留可奈風奈止八吹気色川
かゝるめを見すもあるかな風などは吹気色つ

幾天己曾阿連安左滿之宇女川良可奈利止末
きてこそあれあさましうめつらかなりとま

止不尔猶屋万須奈利見知天雨乃阿之
とふに猶やますなりみちて雨のあし

安多留所止保利奴部久八良女幾於川閑久
あたる所とほりぬへくはらめきおつかく

天世八川幾奴留尔也止心本曾久思日未止不尔
て世はつきぬるにやと心ほそく思ひまとふに

【須磨】 104

君八能止屋可尔経宇知寸之天遠八春暮奴
君はのとやかに経うちすしておはす暮ぬ

連波神春己久奈利屋三天風曾夜留毛不久
れは神すこくなりやみて風そ夜るもふく

於本久多天川留久王无乃力奈留部之以万志
おほくたてつるくわんの力なるへしいまし

波之可久安良八波尔比可礼天以利怒部可利介利
はしかくあらは波にひかれていりぬへかりけり

多可之本止以不物尔奈无止利安部春人曾
たかしほといふ物になんとりあへす人そ

己奈王留、止八幾計止以止可、留己止八末多志
こなわるゝとはきけといとかゝることはまたし

羅春止以比安部利安可川幾可多皆宇知屋春
らすといひあへりあかつきかた皆うちやす

見多利君毛以左、可称以利多滿部連波曾乃
みたり君もいさゝかねいりたまへれはその

左滿止毛見衣怒人幾天奈止宮与里免之
さまとも見えぬ人きてなと宮よりめし

【須磨】
105

安留尔八末以利多満者怒止天多止利安利久止見留
あるにはまいりたまはぬとてたとりありくと見る

耳於止呂幾天左八海乃中能里宇者宇能以止
におとろきてさは海の中のりうはうのいと

以多宇物女天寸留物耳天見以礼多留奈利介利止
いたう物めてする物にて見いたるなりけりと

於本寸尔以止物武川可之宇己乃寸満井多
おほすにいと物むつかしうこのすまぬた

盈可多久於本之奈利怒
えかたくおほしなりぬ

【須磨】
105

或人所望不能峻拒纔染禿
毫畢嘆擲
延徳二曆仲冬下旬
(花押)